拝啓過日御相談致候露国注文之軍需品ニ関シ委員会設置之 件別紙起草委員ノ提案御送付申上候間御一覧置相成度 -(附属書) |日民間製品ノ検査ハ露国ト帝国当業者トノ契約ニ 田一旦締結シタル契約ハ縦令戦争終了スルモ之ヲ破毀セ 四仕払ハ総テ日本ニ於テ日本通貨ヲ以テスルコト 追而不日更ニ御会合ノ上確定致度意見ニ付御含置相成度 シ 日委員会へ陸軍省、 一月十二日附起草委員ノ提案 信用ヲ置ク能ハザラシムルニ至ルノミナラズ遂ニハ損 **蠡**ニ露国ノ申込ニ基キ農商務省ニ於テ土工具、逓信省 帝国政府ハ外務省ヲシテ左ノ要旨ヲ露国政府ニ申込マ 前項第一号ノ委員ハ左ノ要旨ニ依リ関係各省大臣協定 害賠償ヲ要求スルニ至ランコトヲ恐ル是レ全権特派員 アリ此ノ如キハ帝国工業家ヲシテ日露両官憲ノ勧誘ニ 露国政府ノ注文ニ係ル軍需品ノ供給ニ関シ帝国 法律上ノ責任ヲ負フコトハ帝国官制ノ関係上不可能ナ 前号ノ検査ハ懇切正確ヲ旨トスルハ勿論ナルモ金銭及 国ノ依頼ニ依リ帝国委員之ニ任スルモ妨ナシ ヲ要スル所以ナリ モ契約締結ノ時期ニ至リ露国側ノ謝絶ヲ受ケタルコト N ニ於テ通信器材ノ製造供給ノ方法ヲ計画シ又大里某ナ メ其ノ応諾ヲ求ム 府ノ取ルヘキ処置 上内閣之ヲ任命ス ザルコト ルヲ遺憾トス 幣原外務次官殿 者直接露国委員ノ依頼ニ依リ手榴弾ヲ研究製造セシ 一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 露国軍需品供給委員会設置ニ関スル起草委員 事項一二 一月十二日 附属書
一月十二日附起草委員ノ提案 、提案送付ノ件 一月十二日 海軍省、内務省、 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 幣原外務次官宛リ (一月十三日接受) 大島陸軍次官 外務省、大蔵省、 「基キ露 政 生産業者ヲ督励指導シ適当ノ方法ヲ講スルノ外之ニ応スル 帝国政府ハ既ニ官設工場ノ大部ヲ挙ケ露国政府ノ求ニ応シ ツツアルヲ以テ今日以後ノ新注文ニ対シテハ主トシテ民間 準スルコト 露国以外ノ 臼委員、帝国ノ生産能力ヲ調査シ露国ノ注文ニ関シ当業 、道ナシ之カ為先ツ左記条件ノ成立ヲ要ス ⇔露国政府ハ帝国政府ノ任命セル委員ト直接交渉シ且ツ ↔帝国政府ハ露国政府ノ帝国ニ対スル軍需品供給ノ交渉 囟 自委員会ニ関スル費用ハ総テ臨時事件費ト 織シ陸軍次官ヲ委員長トシ其ノ事務所ヲ陸軍省内ニ置 農商務省及逓信省ノ高等官其ノ他嘱託若干名ヲ以テ組 ヲ支弁ス 者ト交渉ン製造供給ノ計画ヲ定メ露国ト当業者トノ契 委員会ノ幹事ハ嘱託中ヨリ特ニ之ヲ任命ス 務省及逓信省ノ委員ノ下ニ所要ノ検査員及雇員ヲ置ク ク、但シ委員業務ヲ執行スル為陸軍省、海軍省、 各省委員ハ其ノ分担事項ヲ計画 仰カザレハ決定シ得ザル結果注文応諾ノ時期ト契約統 対スル注文ヲ総テ此ノ委員会ニ照合シ其ノ仲介斡旋ニ 商務省及逓信省ノ調査ニ移ス 露国ノ注文品ハ其ノ品種ニ従ヒ類別シ陸軍省海軍省農 約ヲ斡旋ス コトヲ得 大変動ヲ生シ製造上大困難ヲ招キタルコト尠カラズ又 結ノ時期トニ大ナル隔離ヲ生ジ為ニ製造原料ノ調弁ニ 従来露国委員ノ権限極メテ小ニシテ毎事本国ノ命令ヲ 右臼ノ説明 派遣スルコト 前号契約ニ関スル一切ノ全権ヲ有スル代表者ヲ帝国ニ 基キ当業者ト直接契約スルコト ヲ統一仲介スル為特ニ委員会ヲ設ケ露国政府ハ帝国ニ トキハ製品ノ検査ニ任ス 委員会規則ハ 申込ノ要旨 外国ヨ 記 リ軍需品ノ注文アリタ 別ニ之ヲ定ム シ且ツ露国ノ依頼アル ルト キ シ各省毎ニ之 ハ本処置ニ

農商

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三九六

三九七

	•
三九九	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三三六
三、額(面)手形面金額ハ送状毎ニ分割発行ス	拝啓仕リ候陳者先般ロ頭ヲ以テ御届申上置候通リ今般弊社
シ得ルモノトス	小 池 張 造 殿
但シ露国政府ノ必要ニ依リ更ニ六ケ月間延長	外務省政務局長
二、期 限 壱ヶ年間	大 倉 発 身(印)
一、形 式 露国大使署名約束手形	大倉組
支払要項	大正五年二月二十八日(二月二十九日接受)
至大正五年八月	附属書。右契約要項
四、積出期間(従大正四年十二月	ノ要項報告ノ件
三、価 格 約壱千五百万円(日本貨幣)	露国陸軍省経理本部及大倉組代表者間ノ契約
二、品 目 内地製造品	三三六 二月二十八日 小池政務局長宛
表者間	
一、契約書 露国陸軍省経理本部ト株式会社大倉組露都代	方可然ト認メラルルニ付陸軍側へ可然御打合アリタシ
契約要項	ペナカルベシト思料セラル従テ此際余リ厳重ニ督促セザル
(附属書)	日迄内約ノ注文品ニ対シ契約ヲ締結セザルガ如キコトハ万
候問別紙概要書相添御参考ノ為メ御届申上候也	談判中ニテ不日纒マルヘキ筈ノ由就テハ露国政府ニ於テ今
以テ受授仕候事ニ協定仕リ既ニ既積出品ニ対シ右実行仕居	非常ノ困難ニ陥ルベキヲ以テ目下仕払問題ニ付英国政府ト
省ヲ代表シテ東京駐在露国大使発行長期約束手形ノ形式ヲ	話ニ依レバ日本ヨリ軍需品ノ輸送杜絶スルニ於テハ露国ハ
候而シテ右代価ハ約邦貨壱千五百万円ニシテ同国政府大蔵	過日来再三外務大臣ノ注意ヲ喚起シ置キタル所同大臣ノ内
ニ於テ露国政府陸軍省経理本部ト軍需品供給ノ契約訂結仕	大蔵省トノ協議整ハザル為甚タ困難シ居ル由伝聞セルニ付
督促シツツアル様子ナルカ露国軍事当局ハ仕払問題ニ関シ	(右和訳文)(註 日本外務省作成、仮訳)
軍需品ニ関スル契約遅延ノ為メ我陸軍ヨリ頻ニ露国当局ニ	January 29, 1916.
第一〇四号(二月二十日接受)	munition until April next.
重ニ督促セザル様稟申ノ件	in this pattern of a
軍需品契約ノ締結ニ関シ露国側ニ対シ余リ厳	lency's attention to the paramount importance of guid- ing an immediate supply of Japanese cartridges to
三三五 二月十八日 石井外務大臣宛(電報)	Sir Edward Grey begs me to call Your Excel-
	Department having undertaken to provide 29 millions
	Japanese or British April deliveries, the British War
予ニ依頼セリ	session. These loans would be replaced either from
ヲ指導スルコトノ極メテ重要ナル所以ニ閣下ノ注意ヲ喚起	cartridges for the Japanese rifles now in Russian pos-
此種弾薬ノ重大ナル欠乏ヲ充タス為ニ日本実包ノ即時供給	need of Russia for an immediate loan from stock, of

一二本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三三四 三三五

三九八

三三四 一月二十九日 日本外務省宛

日本式小銃実包ヲ露国ニ即時供給方要請ノ件

British Embassy,

Tokio.

英国大使館附武官ハ「ロード、キチナー」ノ命ニ依リ陸軍 ガ露国ノ為ニ極メテ必要ナルコトヲ力説シタリ 日本式小銃ニ対スル実包ヲ在庫品ヨリ直チニ借入ルルコト 大臣元帥山県公爵及同大山公爵ト会見シ現ニ露国ノ有スル

此種弾薬ノ重大ナル欠乏ヲ充タス為ニ日本実包ノ即時供給 シ「サー、エドワード、グレー」ハ来ル四月ニ至ル迄ノ間 日本又、英国ヨリ四月中ニ引渡スヘキ分ヨリ之ヲ返却スヘ 四千五百万発ヲ供給スルコトヲ約シタルヲ以テ右ノ借入ハ 英国陸軍省、四月中ニニ千九百万発ラ五月及其以後ニ於テ 與起

magata and Prince Oyama, and has urged the extreme

the Minister for War and with Marshals Prince Ya-

has had interviews, by order of Lord Kitchener, with

The Military Attaché to His Majesty's Embassy

	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三三八 ヨ
ニ付今後トモーニ日本ニ依頼セザルベカラズ而シテ将来日	庫品中譲与シ得ルモノハ従来砲弾炸薬トシテ露国政府ニ供
ニ依レバ注文品ノ引渡ハ契約ノ一割ニモ達セズ右様ノ次第	置候処今般同大臣ヨリ帝国陸軍ニ於ケル「ピクリン」酸在
タル後米国ヘノ注文ハ毫モ信頼スルニ足ラズ今日迄ノ経験	趣致敬承候右者早速陸軍大臣ニ移牒ノ上至急詮議方依頼致
品ノ供給ニ関シ与ヘラレタル多大ノ援助ニ対シ謝意ヲ表シ	譲渡方ノ件ニ関シ本月六日附第三五号貴翰ヲ以テ御申出ノ
四月三日露国大蔵大臣来訪覚書ヲ本使ニ手交シ日本カ軍需	以書翰致啓上候陳者露国政府ニ於テ「ピクリン」酸四百噸
第二五二号(四月五日接受)	政機密送第一五号
ニ付請訓ノ件	希望ニ応ジ難キ旨回答ノ件
行方ニ関シ日本側ノ援助ヲ露国大蔵大臣要請	露国政府ニ「ピクリン」酸供給方依頼ニ対シ
日本ニ注文ノ軍需品代価仕払用大蔵省証券発三三九四月三日石井外務大臣宛(電報)	三三八 三月十三日 在本邦英国大使宛
ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敵具	H. I. J. M. Minister for Foreign Affairs, &c., &c., &c.
1、11月11、11、11、11、11、11、11、11、11、11、11、11	
府ノ希望ニ応シ難キ旨並本要旨ハ既ニ貴大使館附武官ヨリキトシテ語与シ来レル事情ニ権之貧テ作運慨山ノ際英国政	For H. B. M. Ambassador. (Signed) Norman
露国ニ供給ノ弾薬中右爆薬ヲ応用スヘキモノハ全部炸薬除	of my highest consideration.
杜絶ノ結果新ニ急造需要ニ応スル能ハザルニ付不得已近時	il myself of this
給済ニ付最早残余無之加之之カ原料タルヘキ石炭酸ハ輸入	ent request.
I have accordingly the honour to express the earnest hope that the Imperial Government may see their way to give immediate and favourable consid-	His Majesty's Government possess the necessary amount of this material, and are most willing to supp- ly it but the port of Archangel, through which alone it can be imported into Russia from England, will not
strongest support.	is Majesty's Government possess the
ceived the instructions of His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs to afford it my	manufacture of mines for the defence of the naval zone of Petrograd and of the coast of the gulfs in the Baltic Sea.
so caused. LieutColonel Somerville will make this applica- tion to LieutGeneral Oshima today and I have re-	gent application from the Russian Ministry of Marine for four hundred tons of picric acid to be used in the
a case, an equivalent quantity will at once be shipped from England to Japan to make good the deficiency	
of picric acid and to give an assurance that, in such	Contracturate Monsieur le Ministre.
it immediately with the required	No. 35
ascertain and report whether the Japanese military authorities are in a position to supply the Russian	10kyo. 6 March, 1916.
In these circumstances the Military Attaché to this Embassy has been directed by the War Office to	British Embassy,
becomes open to naval attack.	露国政府ニ「ピクリン」酸供給方依頼越ノ件
ready for use 1	三三七 三月六日 石井外務大臣宛
which t	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
be open in time to allow of the fulfilment of the pur-	四、支払地(在横浜露亜銀行
	二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三三七

四〇一

平三代化すら際ニススチント、対害シーシー	本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一ス陸軍名:方ミ耳希ノ夷系とミュノ
三崔足セン祭ニハ下用ナリト反事アリタ	省ニ於テ反瀍メ契約
文アリタシ否ラザレバ作業其他ノ関係上中絶ハ不可ナ	(4)騎兵用軍鞍(露式) 参万組
ト考フ後次ノ需用アラバ現契約品受授完了前ニ早ク注	3]露国式軍靴 参百万組
河曰、昨年ノ始メ貴国ヨリ我陸軍ニ注文契約中同年八月頃	(2)灰色絨(外套用) 参百万碼
故ナリ	山茶褐(カーキ)絨(衣袴用)八百万碼
モ曰、本国ヨリ貴省ヲ経テ注文スルヲ可ナリト申来レルカ	左ノ品種ノ購入方ヲ申来レリ就テハ御尽力ヲ乞フ
レテハ如何	モ曰、今回本国陸軍省ヨリ貴陸軍省ニ依頼シ
ハ現在実行サレツツアル如ク民間当業者ニ直接契約サ	大正五年四月四日午後
河曰、本件ハ何レ調査ノ上答フヘキモ全体是等諸品ノ注文	ト会談ノ要旨
<u>ا</u> د	露国大使館附武官モーレル大佐ト河内衣糧課長
い全部現金仕払但現品引渡完了後六ケ月間仕払猶予ノ	(附属書一)
仰全部債券ニテ仕払ヒ五分利一ケ年後現金払ノコトケ年後支払ノコト	外務次官 幣原喜重郎殿 陸軍次官 山田隆一大正五年四月六日
券、二分ノ一ハ現金払トシ其債券ハ五分利附トシー	為念得貴意候也
()目下大倉組トノ契約ノ如ク契約代金ノ二分ノ一ハ債	貴省大臣へ御協議可致筈ニ付右ノ趣予メ貴省大臣へ御上申
四、代金仕払方法	紙供給案ヲ作成シ明七日(金曜日)閣議ノ際当省大臣ヨリ
是非望ミタシ	ケル会談要旨別紙ノ通リニ有之依テ之ニ対シ当省ニ於テ別
三、騎鞍ノ内壱万組ダケハ本年五月十三日迄ニ供給方ヲ	へ交渉有之即チ同大使館附武官ト当省主任課長トノ間ニ於
供給期限ハ露暦本年	
(四月六日接受)	ヲ発行セシムルノ右大蔵大臣ノ提議ヲ採用シ以テ支払ノ便
二 四月五日附露国軍需品供給案	ベカラザル有様ナリ右ノ次第ニ付日本市場ニ於テ露国公債
長トノ会談要旨	承諾ヲ要スルタメ日露ノ貿易ハ自然英国ノ支配ヲ受ケザル
附属書一四月四日露国大使館付陸軍武官下河内衣糧課	全然杜絶ノ姿トナリ偶々注文アルモ在倫敦軍需品委員会ノ
	見ルニ日本ニ支払フベキ方法立タザルタメ日露直接取引ハ
淡要言立幸軍省ノ共	ニ今次ノ機会ヲ利用スルニ如クハナシ然ルニ昨今ノ情況ヲ
軍需品供給ニ関シ陸軍省主任課長ト露国大使	ケル経済関係発展ノ其
三四一 四月六日 幣原外務次官宛	ヲ仰キタシト言ヘリ
	ズルヤ否ヤ断言シ難シ右ノ事情ニ付是非共日本政府ノ援助
円注文先未定一億三千五百十六万一千円	ラモ漸次財政上ノ困難ヲ感ジ来リタルニ付露国ノ要求ニ応
五千円私設会社へ二千五十万九	ザルニ付 credit 増加ノ件目下交渉中ナルモ英国政府自カ
注文ノ内訳ヲ内報シ来レリ即チ官庁へ二千九百十七万円泰	ノ credit ヲ与ヘタルモ右ハ既往ノ注文サヘ支払フニ足ラ
往電第二五二号ニ関シ大蔵大臣ハ本官ノ需ニ応シ日本ヘノ	ス国政府ハ日
第二五八号(四月六日接受)	御意嚮ヲ確カメラレタシト申出デタリ尚大蔵大臣ハ本官ノ
露国大蔵大臣日本ヘノ注文内訳内報ノ件	省証券ヲ以テ右支払ニ充ツルコトトシタキニ付帝国政府ノ
三四〇 四月五日 石井外務大臣宛(電報)	ルヘキニ付此際帝国政府ノ援助ニ依リ期限三年ノ露国大蔵
	ハ右ノ注文ヲナスヲ得ズ従テ軍事上非常ノ支障ヲ来スニ至
ト御考量ノ上至急何分ノ御回電アリタシ	上ルモ日本貨幣ヲ以テ支払ノ道ヲ見出サザル限リ露国政府
ヲ計ルニアラザレハ千歳一遇ノ好機会ヲ逸スルノ虞アリ篤	本ニ注文スヘキ軍需品其ノ他ノ価格ハ三億一千五百万円ニ
三日 三日 三日 三日	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四〇 ヨ

四〇五	三四一	本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件	一 二 本
 献所 (2) 千住製紙所 (2) 日間当業者 	(2) (1)千住製絨所	(1) 民間ニ供給組合ヲ設立シ政府ノ	選 定 給 オ ノ
ニ於テ事務ヲ処理スニシ陸軍省専ラ陸軍省ニ於テ引受担任ス豊商務省、大蔵省、外務省及陸軍省	ニ於テ事務ヲ処理ス ヨリ高等官若干名宛	務省ニ於テ事務ヲ処理ス組織シ農商務次官ヲ委員長トシ農商ヨリ高等官若干名宛ヲ出シテ委員ヲ農商務省、大蔵省、外務省及陸軍省	組ニ供 織関名 ス引 ル受
1 案 第 三 案	第	第	事
大正五年四月五日	案	露国軍需品供給	(附属書二)
	シ之ニテ他	会談ノ件ハ調査ノ上御返事致スヘン	河曰、本日ノ
約100、000			朝鮮皮革会社
色 靴 絨		日本製靴会社、大塚岩次郎	日
三、二〇〇二千五百六拾万円、	-	五月十三日限	靴 五 月
品 目 数 量 単 価 金 額			絨 六月
		ノ如クナリ	概
-考フルモ反リー			度
(附 箋) 極秘	ちノ為承リ	尚目下民間契約中ノ期限会社等ハ如何参考ノ	ク尚目下
モ日、終了セリ 散会	トニ致スへ	ハ先キニモ述ヘジ如ク兵器局ニ移スコ	河日、鞍へ先
ニ要談ナキャ		レタシ	之ニ拠ラ
モ曰、騎鞍ハ日本式不具合ナリ露国式型ノ見本アルヲ以テサン	シアンティング	原料羊毛ノ欠乏セルタメ多数製造シトモ数量多ク到底全部ハ出来サルヘ	套用絨ハ又紐及靴
件ノ成立未定ナレハ先ツ其根本ヨリ研究シ然ル後ニ致	₹	関係者ニ移スヘシ	ニッキ他
河曰、交渉進行セハ勿論見本ヲ提示スヘシ然レトモ今ハ本	、管掌以外	貧ノ上御答ヘスヘキモ騎鞍ハ自分ノ	河日、何レ調査
同様ノ考ナルモ茶褐絨(カーキ)ハ見本ヲ一見致度		絨類モ製造余力ヲ有スル会社アラント考フ	絨類モ製
モ曰、灰色絨(外套用)及靴ハ従来契約セシ品質仕様ト略	中ニテ済ミ	モノアレトモ靴ハ概ネ本月	モ日、然リ契約中ノ
ト存ス		ルヘシ	シ得サル
モ曰、自分ハ今何ニモ考案ナシ何レ本国へ問合セ試ムヘシ	約品ハ供給	ラサ	中ノモノ
ヲ負担サルル方法ナキャ	在文品製造	民間諸会社ハ本年七月中ノ契約ニテ注文品製造	河曰、目下民
リ必要ノ資本又ハ受クヘキ代金ヲ借用シ其利子ノ仕払		•	考フ
日本銀行ニ相当ノ仕払保証ヲ為シ供給者ハ日本銀行ヨ	セシモノト	ノ成績余リ面白カラサルニモ起因	人供給品
河曰、前キニ御提示ノ代金仕払三方法ノ外ニ貴国政府ヨリ	王リテハ個	クルノ趣旨ナリシナラン尚最近ニ至リテ	コトヲ避ク
モ曰、代金ノ仕払方ハ何レニテモ可ナリ	心ヲ掛クル	継続不明ナリシト重ネテ貴省ニ御迷惑ヲ掛	戦局ノ継
キ政府予算ヨリ仕払フコトハ困難ノ事情アリ	ヘルニ当時	リモ本件ニ関シ何等申来ラサルモ案ス	ド」ヨリ
レタシ昨	トログラー	ノコトハ良ク承知セス「ペ	モ曰、自分着任前
河曰、諸、成ル可ク速ニ調査御答致スヘシ但代金ノ仕払方			タン
数ハ来年何月頃マテニ出来ルヤ其見込モ合セ承リタシ	ノラバ 承リ	等ニ関シ最近ニ至リ何カ他ニ原因アラバ	セズヤ是等
	ルルヲ便ト	今日ト雖モ民間会社ニ直接契	スレ
ヘ シ	天アルニ想	一面ニ民間会社ト契約サレタル事実ア	テ其当時
四〇四	三四一	本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件	一 二 本

_			
供給組合長トス	接契約トス 接契約トス		(1) 官営ニ係ルモノハ当該庁長(1) 官営ニ係ルモノハ当該庁長(1) 管営ニ係ルモノハ当該庁長(1)
受渡場所ハ各製造工場トス日露両官憲立会検査ノ上授受ス	陸軍官憲民間各工場ニ臨ミ冷		検査官ノ意見ヲ尊重セシム但両検査官ノ意見異ナルトキハ日本査ノ上授受ス 査メ上授受ス
(丙)二分ノー現金払トシニ分ノーハ五(丙)二分ノー現金払トシニ分ノーれ払猶予()	立分利債券トシテーケ年後ノ仕ジレスを	ハニテ引受ク	製造ニ係ルモノ
供給組合ノ負担トス	経費ハ臨時事件費ヨリ支出ユ給者ヨリ一般歳入ニ納付セン予定費額ヲ製品単価ニ見積リ		同上
支ハ追加予算トス	同 上		ニテ責任支出トス 被服廠製造ニ係ル 千住ニ係ルモノハ
四月七日 在露国本野大使ヨリ	附属書	△註文予想品	高内訳表
訳報告ノ件	機	月 号 七 日	(四月二十五日接受)
石井菊次郎殿	候処其ノ内訳ハ別添写ノ通ナル旨露国大蔵大臣ヨリ申越ノな(印) 本へ注文セムトスル物品ノ価格ハ三億一千五百万円ニ達シ	ハ別添写ノ	ハ別添写ノ通ナル旨露国大蔵大臣ヨリ申越ノトスル物品ノ価格ハ三億一千五百万円ニ達ツ月七日
文 進 文 置 本野 通	表	右 小 ト ス 川 ス ル 承 写 物 知 ノ 品	相 通 ノ 価 格 ル と 皆 国 国 留 国
名 称 アリー (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	表	右 ハ トス 価 様 別 派 御 添 写 物 瀬 知 ノー	(円) 相通ノ 成ナ価格 度ル皆露 世路 度 日 0
砲兵本部ノ分 称	表	価 右、ハト 価 様別スル 御 添 物 承 物 額 知ノ品	(円) 相通ノ 成ナル 度・ 此皆露 置
管 一 一 税 日 第 二 第 二 第 二 第 二 第 二 1<		二、三〇九、 石 右 トスル 二、三〇九、 額 知 日	九 日 相通/ 一 円 成ナ価 一 ビ 度ルト 四 日 日 四 日 日
サンチャートル 瘤 弾 弾 弾 弾 弾 弾 弾 弾 弾 弾 弾 弾 弾		三、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二	〇〇、一、 一 相通/ 〇〇、〇、一、 一 成ナ価 〇〇〇、〇、一、 一 度ル格 〇〇〇〇、〇、一、 一 股 層 〇〇〇〇〇〇〇〇 四 一 〇〇〇〇〇〇〇 四 日
		三 二、 二、 二、 右、 \wedge 二、 二、 二、 二、 御 添 物品/ 二、 二、 二、 五 一、 二、 二、 八、 三、 小 二、 二、 二、 二、 二、 二、 二、 八、 三、 小 二、 二、 二、 二、 知 二、 二、 〇、 八 一 五、 二、 〇、 八 日 五、 二、 〇、 八 日 五、 二、 〇、 八 日 五、 二、 二、 二、 二、 五、 二、 二、 二、 二、 二、 二	 二 六 二 〇〇、 二 六 二 〇〇、 九 六 〇、 八 一 八 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
	本 日 追 違 指 月 二 空 日 加 加 合 月 二 2 空 日 加 二 合 月 近 二 空 部 二 二 空 部 二 二	本 日 追製 知 追製 加 月 加 月 二分部 合 支部 6 少全 一 2 部 6 / 月 3 6 / 月 3 7 7	・ 一

一二(本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件	商工業代表者会議ノ分	海軍省ノ分総計	古 導	Switch 付 Ceiling	登 鉄 要	鋼 2 鉄	漆 右 及 装 金 金	四十二リネヌイ 速射ース ライ 月 目 金 門	日本式泡用 狷 溑 門本 東	O、五 日 本 砲	······.	海軍省ノ分	陸軍省ノ部総計	小 計	二五 軍用貨物海上運送費	参謀本部ノ分	小計	 二四 二三 二二 二 二	& 脱 体 脂 温	防 腐 用 鍋	小 計	二〇 長 月 乗 靴 二九 尉 兵 用 乗 鞍 二八 鼠 色 外 套 用 二七 カ 1 キ 色 羅 紗 地	経理本部ノ分	小 計	雜注	刺中鉄電線	瓦斯 採取用アル	陸軍技術本部ノ分	小 計	一一雜 注 文
件三四二			五〇、〇〇〇米	1,000	五〇、〇〇〇サジェン	* 五〇、〇〇〇布度					五〇、〇〇〇、〇〇〇個							─○、○○○ 三○、○○○○ 五〇、○○○ 一 一	βģ	00		三、000、000億 三、000、000個				二—三、〇〇〇、〇〇〇布度一、〇〇〇、〇〇〇個	八〇、〇〇〇布度			
		一一、五六二、四四〇	一三〇、五四〇		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		二,七00、	九			一、五〇〇、〇〇〇		二三五、五八一、七八四	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇		七、〇九五、〇〇〇	<u>ر م</u>	R N N N N N N	一、九八九、	六四、〇四二、〇〇〇	二二、四〇八、〇〇〇 二九、一八四、〇〇〇 二九、〇八二、〇〇〇		二三、七八五、五〇〇	1、1400、000	一五、〇〇〇、〇〇〇	三四、		一三六、一五九、二八四	1、1400、000
四〇九			陸海軍武官経由 同 右		高田商会へ注文	·			~ 塗毎武官経由						私立汽船会社へ			私立会社へ 可 右 明 本 、 注文		1		日本陸軍省へ交渉中			合経由 合経由	不 明 私立会社へ注文	不 明			不明

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四二

四〇九

四〇八

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四二

	一三五、一六一、〇二〇、五〇九、〇	明 ~	不私立会社
	五五、	由	平組
00	一七五、	^	本官
			内訳(四捨五入)
000	三十五,000,000		総計(四捨五入)
000 不明	0 Q	文	予想セザル注
000 日本政府へ	— 二五、五〇〇、〇	費	船舵購入
			以上ノ外
	── 二四九、二六七、七二四		予想注文総計
400 私立会社へ注文		銅	四〇 電 解 用
		達関係一件	二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

1 1

三四三
四月十三日
在本邦露国大使館参事官会談石井外務大臣

f

露国軍需品代価仕払用大蔵省証券発行方ニ関

大正五年四月十三日露国大使館参事官セキン氏代理大使ノ スル件

資格ヲ以テ来省語ルラク 過日露国大蔵大臣ヨリ本野男ニ大要内話シタリト ナ .ルガ露国政府ハ此際日本ニ対シ注文スヘキ多額ノ軍需 ノコト

露国ノ財政状態ハ御承知ノ如ク戦争開始以来貿易特ニ輸 品アリ 実不可能ナリ就テハ参ケ年間ノ期限ヲ附シタル大蔵省証 件ノ注文ヲ為スニ付テモ現金ヲ以テ其支払ヲ為スコト事 券ヲ日本市場ニ於テ発行シ之カ代価支払ニ充ツルコト 出貿易ノ非常ナル減縮ニヨリ金融ニ大ナル支障ヲ生シ本 可能ナルベキヤ否ヤニ付閣下ニ同情アル考量ヲ求メヨト 1 訓令ニ接シタリ テ其価格約参億千五百万円ニ上ルヘシト考ヘラル ŀ ハ

本大臣之ニ答ヘテ目 ク

セキン氏日ク 市場ノ現況之ヲ許サザルベシ但シ貴下ヨリ本件ニ付一層 考量スベキュトハ今ヨリ明言スルトコロナレドモ参億以 詳細ナル仕訳書様如キモノヲ提出セラルルニ於テハ之ヲ ニ本件 同僚大蔵大臣ニ転交シ同大臣ノ好意的考量ヲ求ム 上ノ露国大蔵省証券ヲ一時ニ引受クルガ如キハ惟フニ我 モ関係アルコトナレバ能フベキ限リニ於テハ同情ヲ以テ 日露両国ノ親交ニ鑑ミ帝国政府ハ露国政府ヨリ来ル総テ 考案ニツキ友誼的考慮ヲ与フルヲ辞セザルモノナリ特 :ハ貴国将来軍事行動ニモ大関係アリ我国ノ工業ニ \sim シ

セキン氏之ニ答ヘテ日ク

如クナルガ同委員会ハ如何ナルモノナリ

T

本大臣日ク

中ナリ

其点ハ恰モ自分ニ於テ疑問ナリ

シ故目下電報ヲ以テ問

合

過日貴国大蔵大臣本件ニ付本野大使へ談話アリ

倫敦ニ於ケル購買委員会ノ議ヲ経タル云々ノ

句 アリ タル

Ŗ 内

N Ξ

閣下ノ御好意ハ早速之ヲ本国政府ニ電報スヘシ尚詳細ハ 自分ニ於テ未タ承知セザル ニ接シ次第申上グルコト ኑ コ ト ナ サ $\boldsymbol{\nu}$ ナレバ之亦電照シ其回電

本大臣日ク

過日貴大使館附武官ヨリ我陸軍ニ向ヒ六七千万円ニ上ル

注文ヲ為シタリト聞キタル ガ果シテ然リトセバ右ハ参億

千五百万円ノ内ナリヤ如何

七 キン氏日ク

本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三四三

四

兵站専門委員ト大蔵省派遣員(在巴里大使館附財務官「ラ スル 設ケラレタル同一性質ノ委員会ヨリ同盟国ノ注文ニ関ス ツファルウィチ」 氏ノ代表者モ列席ス) ト之 ガ委員 トナリ 尚 同委員会ハ事実上露国ノ委員会ニシテ露国陸海軍兵器及 以テ倫敦ノ露国委員会ノ議ニ上リ其可決ヲ待テ陸軍ニ関 経タルモノハ始メテ露国ノ主管省ニ立戻リテ実際ノ注文 国ノ注文ヲ主義上決定スルモノニシテ同委員会ノ決議ヲ ル総テノ報道ニ接シ一面ハ右注文ト衝突スルコト無ク露 英仏政府ヨリ選派セラレタル委員モ之ニ出席シ協議ニ与 ト為リテ現ハルルモノナリ故ニ日本ニ対シテノ注文モ先 ルヲ常トス同委員会ハ一面英仏政府ノ各自自国ノ為メニ モノハ 「ペトログラード」ニ還リテ陸軍省ノ手ヨ Ŋ

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四四 三四五

関シテモ亦爾リ 東京大使館ヲ経テ日本ニ注文ヲ申込ム順序トナル海軍ニ

セキン氏右ニテ辞去セ 1)

三回四 四月十七日 在露国本野大使宛 (電報)

スル露国臨時代理大使トノ談話要領通報ノ件 露国軍需品代価仕払用大蔵省証券発行方ニ関

第二二五号

露国外務大臣ノ特命ニョレル趣ニテ代理大使ノ資格ニテ来 得ルモ三億以上ノ露国大蔵省証券ヲ一時ニ引受クルガ如キ バ能フ限リニ於テ同情ヲ以テ考量スルコトハ今ヨリ明言シ 来ノ軍事行動ニモ大関係アリ我工業ニモ関係アルコトナレ ノ考案ニ付友誼的考慮ヲ与フルヲ辞セズ特ニ本件ハ露国将 ヲ申添ヘタルニ付本大臣ハ日露間ノ親交上露国政府ノ総テ シ本大臣ノ同情アル考量ヲ求ムヘキ旨訓令ニ接シタル次第 省本大臣ニ対シ貴電第二五二号ト同一ノ事項ヲ述ヘ右ニ関 貴電第二八五号ニ関シ四月十三日在本邦露国大使館参事官 書様ノ如キモノヲ提出セラルルニ於テハ之ヲ大蔵大臣ニ転 ハ我市場ノ現況之ヲ許サザルベシ尤モ今一層詳細ナル仕訳

> 細本国政府へ電報シ詳細ノ回答ヲ求メテ更ニ本大臣ニ通知 交シ其ノ好意的考量ヲ求ムヘシト答ヘタルニ同参事官ハ委 四二二

右御参考マテ電報ス スベキ旨申述ベタリ

三四五 四月二十四日 在本邦露国臨時代理大使宛石井外務大臣ヨリ

旨通報ノ件 湿綿火薬ノ製造我海軍ニ於テ引受ノ意思アル

政機密送第三六号

臣ハ玆ニ重ネテ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 ラルル場合モ可有之候ニ付予メ其要否承知致度趣海軍省ヨ テ之ヲ必要トセラレザルナラバ右ノ製造ハ或ハ他ニ転用セ guncotton) テ或程度迄之カ製造ヲ引受差支無之候ヘドモ貴国政府ニ於 以書翰致啓上候陳者平塚火薬製造所、専ラ帝国海軍用火薬 リ申越有之候間何分ノ儀御回示相成候様致度右申進旁本大 ルニ至リ候ニ付テハ若 シ貴国政府ニ 於 テ 湿綿火薬 ノ委託製造ニ従事中ノ処近来之ハ製造ニ多少ノ余力ヲ生ズ ノ製造ヲ要望セラルルニ於テハ帝国海軍ニ於 敬具 (wet

Traduction.

No. 8

Confidentiel

Tokio, le 24 Avril 1916

Monsieur le Chargé d'Affaires,

plus de la force productrice. fabriquer exclusivement des poudres pour l'usage de la Marine Impériale, dispose maintenant certain sur-La poudrerie de Hiratsuka qui est chargée de

tion d'acquérir ce produit, l'Autorité navale mettrait quantité. destination. eventuellement ladite force productrice, vale pourrait se charger de la fabrication de certaine les poudres de coton (Wet gun-cotton), l'Autorité na-Si le Gouvernement Russe désirait faire fabriquer ŝ votre Gouvernement n'a pas à une autre l'inten-

la présente. vous prie de vouloir bien me donner une réponse Gouvernement impérial russe le désir d'être informé dès à présent de l'intention du Le Ministère de la Marine venant de m'exprimer sur le point précité, je è۶

les assurances de ma considération très distinguée Veuillez agréer, Monsieur le Chargé d'Affaires,

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四六

> 三四六 Chargé d'Affaires de Russie 四月二十五日 菅原大蔵次官宛 ່ນ

Monsieur Shékine,

Signé

(右仏訳文)

大倉組ニ交附セラルヘキ露国大蔵省証券ニ在

本邦露国臨時代理大使署名ノ件

附属書 四月二十五日幣原外務次官ヨリ大倉組大倉喜八 郎宛書信写

右在本邦露国臨時代理大使ノ通報伝達ノ件

機密送第四一号

本件ニ関シ在本邦露国臨時代理大使ヨリ当省大臣へノ申越 ニ基キ別紙写ノ通大倉組へ通牒致置候間御参考迄右写相添

此段及通報候也

(附属書)

露国大蔵省証券ニ署名権限附与セラレタル旨在本邦露国臨時代 四月二十五日幣原外務次官ヨリ大倉組大倉喜八郎宛書信写

理大使ヨリノ通報伝達ノ件

私信秘親展

拝啓陳者在本邦露国臨時代理大使「シ T キ ン」氏 \sim 同国政

四三

四一五	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四九
翰第三三八号	スヘキ証言ヲ徴シ置クカ其他之ニ類スル保障ヲ得ルコト最
四月二十七月付主本祁露国為寺弋里大吏ヨノ将京外务欠害注퇅乙号写	中ニ加ヘテ新規募集金ヲ以テ我ニ対シテ現金償還
機會)	初ノ機会ニ於テ我邦引受ニ係ル露国証券全部ヲ該整
註 別紙甲号前渴(三四二文書) - 付省咯~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	国等ニ於テ募集シ既発ノ公債ヲ整理スル如キコトアルベキ
ニ就キ卸了	コトヲ約東スルカ若クハ他日英国又ハ英仏共同ノ公債ヲ米
通来示有之候条右御参考迄	保証ヲ為スカ又ハ我必要ニ随ヒ該証券ヲ英国ニ於テ買取ル
理大使ヨリモ本件ニ牽連シ客月二十七日附書	ニハ例ヘバ英国ハ我邦ニ於テ発行スル露国短期証券ノ仕払
格等ニ関スル客月七日附同大使報告接到致候将又在本邦露	我邦ヨリ露国ニ対スル軍需品ノ供給ヲ便ナラシムルガ為メ
五二号第二五八号及移牒候処今般別紙甲号写ノ通右品目価	バ市場ノ資金ヲ之ニ向ハシムルコト困難ナルベ
券ヲ我国市場ニ発行ノ件ニ付在露本野大使ヨリノ来電第二	ヲ附ケ短期間ニ現金ニ引換へ得ルノ保障ヲ得ルニ
我国ヨリ供給スル露国軍需品ノ代金仕払ノ為露国大蔵省証	発行スルコトハ何等カノ方法ヲ以テ英仏殊ニ英国
政機密送第四三号	スルニ至ルベシ況ンヤ此上巨額ノ露国大蔵省証券ヲ我市場
原外務次官宛書翰第三三八号写降属書「四月二十七日降石才非雲国臨時代理大伊ヨリ幣	ヲ必要トシ若シ其途立タザルニ於テハ我産業ノ発展ヲ阻碍
調査 コーニーニーサミスの容易高テ文星に行って 関スル件	局終了シ事業資金ノ需要起ルニ於テハ直ニ現金ト引換フル
露国ニ供給スル軍需品ノ品目代金及仕払方法	目下懸案トナリ居ルモノ四千三百余万円有之是等ハー旦時
	ニ露国大蔵省証券六千五百五拾万円ハ引受済ミニシテ此外
三四九 五月一日 石井外務大臣ヨリ	市場ニ於テ募債スルコト必ズシモ不可能ナラザルベキモ既
御依頼候也	ク候尤我製造力ニ応ズル程度ノ注文ナラバ之レガ代金ハ我
必要ト存候間之ニ関シ特ニ御配慮相成度此段意見開陳旁及	億円以上ノ軍需品ヲ短日月間ニ製造シ得ルトハ考ヘラレ難
ノモ亦少カラザルコトヲ顧ミルトキハ今更ニ露国ニ対シ三	
タル趏度ナルニ従シ且既終ノ軍需品中琪ニ製造中ニ係ルモ	、文、皇子子子、四字権法を支付
、居宅して、女としいて「「「「「「」」」、「「」」、「」」、「」「」、「」」、「」」、「」、「」」、「」、「	申進旁本大
文郎日 トヨードウィス	旨ノ通大倉組へ通牒方取計置候間右様御承知相戏度比没可
我製造力ガ之ニ応ジ得ルヤ否ヤヲ決定シ難ン開戦	一日附第三〇五号貴翰ヲ以テ御来示相成致敬承候右ハ御来
ノ期日迄ニ需要スルカヲ確	大臣ノ電報ニ接セラレ候趣ニテ右大倉組ニ通報方本月二十
巨額ノ露国注文ヲ引受ケ得ルヤ否ヤヲ顧慮スルヲ要シ而シ	ノ権限ヲ貴官ニ代理大使タル資格ニ於テ附与ノ旨貴国外務
チ我邦	露国大蔵省証券ヲ同組ニ交附スルニ当リ該証券ニ署名スル
候本件ニ関シテハ露国カ我邦ニ注文スル軍需品ノ代金ヲ我	以書翰致啓上候陳者大倉組ノ供給シタル軍需品代金トシテ
本野大使ノ電信第二五二号及第二五八号御回付相成領承致	政送第四一号
ヲ帝国政府後援ノ下ニ日本市場ニ於テ引受発行スル件ニ付	名方ニ関シ回答ノ件
我国ヨリ供給スル露国軍需品代金仕払ノ為露国大蔵省証券	大倉組ニ交附セラルヘキ露国大蔵省証券ノ署
外務大臣男爵 石井菊次郎殿	三四七 四月二十五日 在本邦露国臨時代理大使宛
大蔵大臣 武富時敏(印)	日日にも、日井外務大豆ョ
大正五年四月二十七日	度此段及移牒候 敬具
官秘房第一四七号(四月二十八日接受)	附書翰ヲ以テ同代理大使ヨリ依頼申越候間右様御承知相成
意見開陳ノ件	大臣ノ電報ニ接シタル趣ニテ右貴組へ通報方本月二十一日
露国大蔵省証券引受発行問題ニ関シ大蔵省ノ	記名スルノ権限ヲ本国政府ヨリ附与セラレタル旨同国外務
三四八 四月二十七日 石井外務大臣宛	附セラルヘキ同国大蔵省証券ニ露国代理大使ノ資格ヲ以テ
	府ト貴組トノ協定ニ基キ貴組ニ対シ納品代価支払トシテ交
三四八四一四	二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四七 ニ

____ 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三四九

Tokyo, the 27th of April 1916.

No. 338

Dear Mr. Shidehara,

Н beg to give the infomations you asked me With reference to our conversation this morning

μ have been signed by Colonel Morel: During March and April the following contracts

F. quick burning fuzes	E. howitzers	D. tape shape powder	C. detonators	B. fuzes	A. mountain guns (100)	- Taihei Kumiai	A. motors	- Ikegai and Co.	A. telephones	- Okura and Co.	C. transport of same	B. telephone cables	A. telephones	- Ministry of Communications	
¥	¥.	¥.	¥	¥	¥		¥		¥		¥.	¥	÷		
28.970,10	206.640	3.195.000	¥. 1.124.000	¥. 14. 360. 000	309. 111, 70		1.334.000		¥. 1.051.890		21.800	¥. 2.275.000	714.000		

ω

 $\dot{\mathbf{v}}$

Ψ

5.-Private firms

四一六

powder, 100.000 rifles of the 30th year of Meiji, artilcamphor, sulphur, silk cloth, thermometers, brass, gun Prepared outstanding contracts, not yet signed,-A. - 10.000.000 bandages about ¥. 2.000.000

by the Naval Attaché cannot be actually fixed. lery ammunition and others about ……¥.70.000.000. The exact sum of the contracts under discussion

easy to make such arrangements that the obtained avoid. to meet such and such definite orders will present inquiry as to the possibility for the Japanese industry of loss of time, which it would tion changing quickly as matters go on,- not to speak difficulties,- circumstances and conditions of producernment in Japan. actual payments for the account of the Russian Govmonetary market which should not be necessitated by nance Minister wishes to avoid all such strain on the understand the reasons why His Excellency the Fithis opportunity to state once more that I perfectly While forwarding you these informations I take I feel sure that discussing the loan it will be But it seems me that a strict be so desirable to

ing loans.same time a much higher interest on the correspondvery low interests in the banks and to pay at the be in our interest to keep large sums of money at lency the Finance Minister. It certainly should not and to meet in that way the objections of His Excelcredits will be used for outstanding payments only

意味ヲ覚書ニ認メ五月六日在本邦露国代理大使ニ交付シ置

キタルニ付右様御承知アリタシ

本邦ニ於ケル露国軍需注文ハ既ニ多量ニテ此上応シ得

ヤ疑問ナルモ我製造力ニ適応スル丈ノ代金ハ我市場ニ於

往電第二二五号ニ関シ大蔵大臣ト協議ノ上大要次ノ通リノ

第二七四号

レタル件

附記 五月六日日本外務省ヨリ在本邦露国大使館宛覚書

remain. which I have received from you this morning and-With best thanks I enclose the Russian document

Yours sincerely,

テ募債スルコト不可能ニハ非ザルベキモ特ニ考慮ヲ要ス

アリ外ニ目下交渉中ノ分四千三百余万円アリ此等ノ証券

点ハ既発行ノ露国大蔵省証券ハ既ニ六千五百五十万円

ハ戦後事業勃興ノ際証券所有者ニ於テ現金ニ引換ヘンコ

N

(Signé) Shekine

His Excellency

Mr. Shidehara

Vice-Minister of Foreign Affairs

(欄外註記)

三五〇 五月八日 在露国本野大使宛(電報)石井外務大臣ヨリ

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三五〇

テ右証券ヲ買取リ又ハ英国大蔵省証券トノ引換ヲ約スル テ右証券ノ支払保証ヲ為スカ或ハ我必要ニ応ジ英国ニ於 非ザレバ日本資本家ハ之ニ応ゼザルベシ例ヘハ英国ニ於 国トノ関係ヲ付ケ迅速ニ現金ニ引換へ得ル保障ヲ得ルニ 期限ニテ発行スルコトハ何等カノ方法ヲ以テ英仏殊ニ英 ノ発展ヲ阻碍スヘシ故ニ此上巨額ノ露国証券ヲ三ヶ年ノ トヲ欲スルニ至ルベク若シ其ノ途ナキニ於テハ帝国産業

四一七

意向承知シ度キ旨在本邦露国代理大使ニ申入 大蔵省証券引受ニ関スル条件ニ付露国政府ノ

旨ヲ述ベタルガ之レハ其返事ナリ(長岡)」

「次官シエキーン氏ト会談ノ際露国ノ契約済ノ品目承知シタキ

四九	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五〇
that besides the amount of Yen 65,500,000 of the Rus-	Pro Memoria. On the 13th of April last, the Russian Chargé
sible to issue loan	(右英訳文)
estimation of the financial authorities, be altogether	計四千三百余万円
execution of fresh Russian orders, it would not, in the	文
tent now under contemplation. In any case	品目(軍弒及軍靴(大正六年一月ヨリ同三月末マテニ納メノ注)二千六百余万円
try can afford to undertake further orders to	品目 軍絨及軍靴 大正五年十二月末マテニ納メノ注文
which have already been placed in Japan, it is diffi- cult to conceive that the industrial power of this	確メタル所ニ依レバ左ノ通リナリ
ving regard to considerable orders of mun	時二果長バエヨト日常星を量果長女に成省なな書目子は 露国大蔵省証券懸案中ナル四千三百万円ノ内訳ハ松田政務
the following considerations:-	ン氏ニ手交セラル」
to invite the attention of the Russian Government to	「本書ノ英訳文左掲ヲ五月六日幣原次官ヨリ露国代理大使シエ(欄外注記)
the matter at once to the Minister of Finance, who	ヲ希望ス
Minister for Foreign /	件ニ対スル露国政府ノ意向ヲ回示スルノ労ヲ執ラレムコト
emplates to place in the hands of Japanes	之ヲ露国政府ノ考量ニ附シ露国代理大使ノ成ルヘク速ニ本
Treasury Bonds to the amount of Yen 315,000,000 to nav for the orders of war munitions which Russia	玆ニ帝国外務大臣ハ前記帝国大蔵大臣所見ノ趣旨ヲ述ヘテ
in the market of Japan of	無キヲ保シ難シ
he question of the J	ル保障無キニ於テハ日本市場ニ於ケル新募債ハ失敗ニ
d'Affaires had an interview with tha Minister for	障ヲ英国又ハ英仏両国ヨリ与ヘラルルカ其ノ他何等之ニ類
加ヘテ新規募集金ハ日本引受ノ証券償還ニ充テラルヘキ保	ニシテ我製造力ニ適応スル程度ナル以上之ガ代金ハ日本市
本引受ニ係ル露国証券ヲ他種債券ニ先チ該整理ノ目的中ニ	製造力上果シテ如何アルベキカナレドモ大蔵当局ハ右注文
集シ既発ノ公債ヲ整理スル如キコトアルヘキ機会ニ於テ日	タレバ此上更ニ目下計画ノ程度ニ於テ注文ニ応ゼムコト我
ルカ或ハ又他日英国又ハ英仏共同ノ公債ヲ米国等ニ於テ募	本邦ニ於ケル軍需品注文ノ数量ハ既ニ少カラザル額ニ上リ
ニ於テ買取リ若ハ之ヲ英国ノ大蔵省証券ニ引換フルヲ約ス	希望セリ
省証券ノ仕払保証ヲナスカ或ハ我必要ニ随ヒ該証券ヲ英国	慎重審議ノ末左ノ所見ニ関シ露国政府ノ考量ヲ求メ度シト
ト是ナリ之ヲ例スレハ英国ハ日本ニ於テ発行スル露国大蔵	ヲ直チニ帝国大蔵大臣ニ移牒シタルトコロ同大臣ニ於テハ
ルニ非ザレバ日本資本家ニ於テ喜ンデ之ニ応ゼザルヘキコ	スルノ件ニ関シ談話ヲ交ヘラレタリ本件ハ帝国外務大臣之
何時ニテモ迅速ニ右証券ヲ現金ニ引換へ得ルノ保障ヲ附ス	露国大蔵省証券参億千五百万円ヲ新ニ日本市場ニ於テ発行
行セムカ何等カノ方法ヲ以テ英仏殊ニ英国トノ関係ヲ設ケ	日本へ向ケ注文計画中ニ係ル軍需品代金支払ニ充ツルガ為
ニ鑑ミ此上巨額ノ露国大蔵省証券ヲ三ケ年ノ期限ヲ以テ発	本年四月十三日在本邦露国代理大使ハ帝国外務大臣ト目下
産業ノ発展ヲ阻碍スルニ至ルベキコト必然ニシテ右ノ事態	
換ヘムト欲スルニ至ルベキモ若シ其ノ途無キニ於テハ帝国	(附.記)
ノ需要ニ応シ債券所有者ハ必ズヤ其ノ所有債券ヲ現金ニ引	示セラレタシ
発行額ハ頗ル巨額ニシテ且戦事終了後事業勃興ニ伴フ資金	債ハ失敗ニ終ルノ虞アリ右ノ点ニ付露国政府ノ意向ヲ回
加フルニ目下交渉中ニ属スル分四千参百余万円アリ其ノ総(雌)	他之ニ類似ノ保障ナキニ於テハ日本市場ニ於テノ新規募
既ニ本邦ニ於テ発行セラレ	先チ償還セラルベキ保障ヲ英国等ヨリ与ヘラルルカ其ノ
*	行公債整理等ノ場合ニ日本引受ノ露国証券ハ他種債券ニ
場ニ於テ募債スルコト必ズシモ不可能ニアラズト思考ス然	カ或ハ又他日英国又ハ英仏公債ヲ米国等ニテ募集シ既発
四一八	二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五〇

	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五一 ニ
Tokio, le 7/20 Mai 1916.	付意見上申ノ件
ノ件	ニ応ズルコト不可能ナル旨同国蔵相ノ談話ニ
シ得ザルニ付日本政府ノ再検討ヲ望ム旨申出	露国大蔵省証券発行ニ関スル日本政府ノ申出
露国大蔵省証券ニ対スル第三国ノ保障ハ賛同	ヨ ノ ナ ド
三五三 五月二十日 石井外務大臣宛	三五二 五月十九日 在露国本野大使男儿
	註 別紙 覚書前掲ニ付省略
	申進候也
尚本件ニ関シ露国大蔵大臣ニ申入ルベキコトアラハ御回示	リ在本邦露国代理大使ニ回答致置候間右御承知相成度此段
思料セラル本件ニ関シ更ニ帝国政府ノ御考量ヲ煩ハシタシ	趣了承就テハ本件ニ関シ貴省ト御打合ノ上別紙覚書写ノ通
ルニアラザレバ露国政府ノ注文全部ヲ取逃ガスノ 虞アリト	本件ニ関シ客月二十七日附房秘第一四七号ヲ以テ御来旨ノ
以テスル仕払ニ応ズルカ又ハ日本ニ於テ露国公債ヲ発行ス	政機密送第四六号
トモ出来得ル限リノ高ニ於テ期限三年ノ露国大蔵省証券ヲ	理大使ニ回答シタル件
ヲ述ヘタリ依テ帝国政府ニ於テ露国政府申出ノ全額ナラズ	露国大蔵省証券ノ引受発行ニ関シ露国臨時代
何レ外務省ヨリ帝国政府ニ対シ同趣旨ノ回答ニ及フヘキ旨	
ニ要求スル事ハ露国政府ノ到底為ス能ハザル所ナル旨及ヒ	三五一 五月八日 武富大蔵大臣屯
リ移牒ニ接シタルガ帝国政府御申出ノ如キ保証ヲ英国政府	
シタルニ同大臣ハ既ニ本件ニ関シ外務省	
五月十五日阪谷男ノ為メノ午餐ノ際大蔵大臣ニ対シ貴電第	or retrograd on the subject. Department of Foreign Affairs
	early as possible
Charge d'Alfaires may be good enough to inform him	given by England for the payment of the Kussian
permits himself to	form, for instance, of endorse
Aussian Government, the Minister for	sury bonds to cash. Such an arrangement n
In bringing the above considerations to the notice	rompt
nended, prove a ranure.	ularly with the former, affording a gr
tempt to itoat new loans in Japan will, it is appre-	er be mad
absence of some such arrangement,	ese financie
	than three years, will hardly be found attractive to
be made available for the redemption of the Russian	Treasury bonds redeemable after no shorter term
ceeds to be realized by such consolidation loans shall	eventualities in view, a further issue of the Russian
nich are to be	trial development of the
ference to other loans, included a	rious nature would certainly be inflicted upon the
	should the conversion of the bounds for such purposes
in common with a view to consolidation of their out	revival of industrial activities is sure to call for.
raised in the American r	s cashed to
land and France combined that in the event of loans	present conflict, the bond-holders will prefer to have
or of an assurance to be given by England or Eng-	and it is evident that upon the termination of the
requirements of the Japanese m	each to no small amount in the near
easury	Aussian roan of about ren 40,000,000 is actuarly under discussion. The Russian Treasury bonds in Iapan
<u>,</u>	
Treasury honds issued in Ianan. or. of an undertak-	surv honds already issued in Ianan.
四一〇	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五〇

四
-

本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五五 三五六

ガ

浜

期ノ出資ヲ好マズ其前ニ於テ前陳工業上ノ需用起リタルト 露国政府ハ第三国ノ保証云々ヲ以テ露国財政上ノ信用ヲ疑 二七四号ノ如キ回答ヲ為シタル次第ニシテ畢竟日本銀行家 希望ヲ有シ我大蔵当局ハ此当然ナル希望ヲ参酌シテ往電第 キハ今回応ゼントスル露国大蔵省証券ヲ現金ニ換へ得ルノ ヘキヲ予想シ此需用ニ応ジ得ンカ為ニ参年トイフカ如キ長 日本銀行家ニ於テ遠カラズ国内ニ於ケル工業上ノ需用起ル ハレタルカ如キ感ヲ抱ケルヤニ思ハレタルニツキ本大臣 ノ立場ヲ自衛スルニ出デタルニ外ナラザルコトヲ説明 ハ 目下日露両国間ニ懸案タル露国公債ノ件ニツキ過日露国代 テ本国政府ノ訓令ヲ請ヒタルトコロ昨日(五月三十日)回電 援助ヲ得度旨ノ依頼アリ(露国政府ヨリ英国政府ニ対シテ 理大使ヨリ概略ノ談話アリタル後本問題ニツキ英国政府ノ ニ接シタルニツキ次ノ事項ヲ訓令トシテ閣下ノ聴聞ニ達ス モ同様ノ依頼アリタルヤニ了解ス)因テ本使ヨリ電報ヲ以 府ハ帝国政府ノ斯カル態度ヲ以テ友好的行為ト認ムルモ 本国ニ於テ便宜ヲ与ヘ之ヲ成立セラルルニ於テハ英国政 セントスル露国ノ希望ニ対シ均シク英国ノ同盟国タル日 注文ヲ容易ナラシムルガ為ニ日本市場ニ於テ公債ヲ募集 的態度ヲ持ス換言スレハ英国ノ同盟国タル露国ノ軍需品 英国政府ハ日本ニ於ケル露国公債募集ノ問題ニ関シ厚意

往電第三〇九号ニ関シ

第三一一号

三五五

五月二十二日

在露国本野大使宛石井外務大臣ヨリ

(電報)

露国大蔵省証券引受ニ関シ保障問題ヲ提起シ タル事情ニ付露国当局ニ説明方訓令ノ件

> 大正五年五月三十一日英国大使来省会談ノ一節 度ニ付在本邦英国大使言明ノ件

日本ニ於ケル露国公債募集ニ対スル英国ノ態

三五六 五月三十一日 在本邦英国大使会談石井外務大臣 シ シ置キタリ尚貴官ヨリモ露国当局ニ誤解ナキ様説明アリタ

五月二十日在本邦露国代理大使来訪本国政府ヨリ公債問題 第三〇九号 一年ヨリ同四十年迄壱千四百万留余合計壱億七千四百万留 ニツキ之ヲ基礎トシテ日本政府カ公債問題ヲ考量セラレタ (千九百十六年ヨリ同三十年迄年々壱千万留余千九百三十 ナリトアリト語リ 日ノ持分 =

余)ヲ日本政府ニ提供シ右ハ公債額ノ半額以上ニ上ルモ テ極メテ内密ニ次ノ提案ニツキ日本政府ノ考量ヲ煩シタシ 此旨ヲ記載セル覚書ヲ本大臣ニ手交シタル上更ニロ頭ヲ以 於テモ露国政府ノ承諾シ能ハザルトコロ 第三国ノ保証ヲ附シタルコト前例無之右ハ如何ナル形式ニ ニ関シ回電アリタルガ右ニョレハ露国政府ハ自国ノ公債 トテ其ノ述ベタルトコロハ義和団事変賠償金露 国

シトイフニ在リ

識シ来レルトコロニカカリ又大蔵大臣月末迄地方出張不在 ニテ本件詮議モ手間取ルヘシト思ハルルニツキ貴官限御含 タリ以上ハ露国政府ノ訓令ニョリ内々ニ提

迄

本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五四

Confidentiel.-

l'idée d'une garantie de l'Angleterre ou de l'Angleterre et de la France en commun Pro-Memoria en date de transmettre à son Le Chargé d'Affaires du 6 Gouvernement le contenu du de ¢∿ Mai courant suggérant Russie n'a pas manqué l'emprunt russe pro-

bons citée même sous la forme d'un échange ultérieur des ment Russe ne pourrait adhérer à la suggestion prépar une tierce Puissance, par conséquent le Gouverneprunts russes n'ont jusqu'à prèsent jamais été garantis jeté au Japon.-D'après la réponse reçue de Trésor Russes à émettre contre les obligade Pétrograd les em-

la question à un nouvel examen le Chargé d'Affaires tions anglaises ou françaises.-En priant le Gouvernement Japonais de soumettre

qu'il a reçu les instructions nécessaires pour continuer son Excellence le Ministre des Affaires Etrangères de Russie a l'honneur de porter à la connaissance de

les négociations.-

Son Excellence

Monsieur le Baron Ishii

Ministre des Affaires Etrangères.-

(欄外註記)

大使来訪談話ノ上手交」 「大正五年五月二十日在本邦露国臨時代理大使シエキン氏石井

三五四 五月二十一日 在石 露 月 外 日本野大使宛 (電報)

露国大蔵省証券引受ニ関スル保障問題ニ付露

国政府ヨリ回答ノ内容通報ノ件

四三

二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五七	三日
ノナリ	締約並代金支払方法
(欄外註記)	1 契約ハ陸軍工場ニ於テ製造スルモノハ該工場庁長官、
「本書浄写一通六月一日調成、六月二日(金)大臣右浄写携帯	民間工場ニ於テ製造スルモノハ該工場主若ハ其代表
シア閣論へ走 オル」	者ト露国陸軍省ノ委任ヲ有スル官憲トノ間ニ締結ス
三五七 五月三十一日 沖野大蔵省理財局長ョリ	、レロケチ魚的中)カコクあく日本陸軍省へ前記相互間ニ該契約ヲ確実ニ履行セシ
露国軍需品ニ関シ我陸軍省ヨリ露国大使館附	2(代金支払方法へ左ノ各項ニ拠ル
武官ニ対スル提案写送附ノ件	
附属書 五月六日我陸軍省ヨリ在本邦露国大使館付武官	払ハルルコト
スル牛ニ対スル提案写軍需品締約并代金支払方法ニ関	B 前項代金支払準備ノ為メ露国政府ハ左ノ条件ニ依
国秘第四四二号(六月一日接受)	リ大蔵省証券ヲ発行スルコト
軍省ヨリ露国大使館附武官ニ提案ニ系ル軍軍ヨシーー・	a 露国大蔵省証券参千万円乃至五千万円ヲ日本
方法書写及御送付候	ニ於テ引受クルコト
大正五年五月三十一日	b 発行時期ハ七月ヨリ九月迄ノ間トス
大蔵省理財局長 神野勝之助(印)	c 条件ハ発行ノ時ニ於ケル情況ニ適応シテ協定
外務省政務局長 小池張造殿	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
「「月、「月、火を置く」」、日本の愛習で見合けたい。「サイン」をかえ(附属書)	乃至一ケ年ニシテ相当手数料ノ外ニ割引歩合ハヘ日本大蔵雀ノ見辽ニ依レハ償還期限ハ六ク月
支払	少クトモ年六分ヲ要スヘシ)
於テ日本通貨ヲ	大臣へ意見開陳旁御交渉ニ及ヒ候次第モ有之候処其節一言
券持参人ノ望ニ由リ	致置候如ク頃日来露国カ我陸軍及陸軍省ヲ介シテ民間会社
ルコト	百万円ハ本野大使送付ノ内訳表ト其後陸軍省ヨリ送付ノ四ニジブキンー谷フル軍署占糸四十三百万円右アノ山口ニニ
e 露国政府ハ我銀行団ノ手ヲ経ズシテ流通証券	千三百万円ノ内訳表ト対照シ品種及其番号等ヨリ推測スル
ヲ発行セザルコト	ニ三億千五百万円ノ内ト認メラレ候)然ルニ其物品供給方
f 日本市場ハ今後資金需要増加スベク随テ期限	法及代金仕払方法等ニ関シ陸軍省ヨリ露国側ト交渉既ニニ
ニ至リ現金償還アルコトヲ期待スルガ故ニ露国	三ケ月ヲ経ルモ未タ契約締結ノ場合ニ至ラズ日本側ハ原料
政府ハ期限ニ至リ現金償還セラルル様今日ヨリ	ノ仕入及工業ノ準備等ノ関係上此際至急契約締結ニ至ラザ
予メ其方法ヲ講ジ置カルルコトヲ希望ス	レバ引受困難ノ模様ナル趣ニテ陸軍省ヨリ種々交渉有之依
三五八 六月一日 皆泉ト务次言を	ン根子田・意句ヲ傕メタレニ要頁いに己・通リニテ七祭篭ラ州省ニがラハ代金仕払ノズノ露国ナ魔省記券発行ブニ国
シ	曩ニ当省大臣ヨ
ルコトナク交渉ヲ進行シ差支ナキ旨申越ノ件	渉相成居候露国証券ノ現金償還保障方法ヲ立ツルコトハ全
官房秘乙第一〇五二号(六月一日接受)	体ノ問題トシテ之ヲ他日ニ譲リ今回発行セントスル四五千
9 = ヒレハキニョノ帝国女守ハ爰力ニなノ羽根三年ハ 露国 露国カ今後日本ニ注文スヘキ軍需品ノ価格ハ三億千五百万	色を無たれす露国大吏ニサノ目下孫系トトリ合レナトを急万円ノ分ニ付テハ此際之ヲ決定セズシテ進行スルコトトシ
券ヲ以テ右仕払ニ充ツルコトトシ	ノ手続ニ着手
希望ニ関スル本野大使ノ電報ニ対シ曩ニ当省大臣ヨリ貴省	ルル方可然旨御交渉相煩度此段及御依頼候也
一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五八	四二五

四二七	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五九
テ元利年賦済崩ト為シ得ヘキ金額トス即チ償還期限二十	(別 紙)
日本銀行ヨリ受取ルヘキ支那債券譲渡ノ年賦払代金ヲ以	ルベシ是レ熟慮スヘキノ五ナリ
五露国政府カ日本ニ於テ発行スル公債ノ金額ハ露国政府カ	ツ既ニ契約済ノ軍需品ニ対シテハ代金支払ノ延滞ヲ免レザ
知スルモノトス	ル露国債券ノ元利モ予期ノ如ク償還セラレザルノ虞アリ且
事件償金元利受領ノ権利ヲ日本銀行ニ譲渡シタル旨ヲ通	今後軍需品注文ノ来ラザルハ可ナリトスルモ既ニ発行シタ
政府カー九一六年六月以後支那政府ヨリ受取ルヘキ団匪	ラザルモノト思ハザルベカラズ是レ熟慮スベキノ四ナリ
四日本政府及露国政府ハ支那政府及関係銀行団ニ対シ露国	品代金支払ノ途ハ杜絶スヘキヲ以テ今後軍需品ノ注文ハ来
本銀行ニ委任スルモノトス	券ヲ日本ニ於テ発行セシムルコトハ先ゾ絶望ナルベク軍需
債ノ元利償還資金ニ振替充当スルモノトシ其ノ取扱ハ日	然ラバ支那債券ノ譲与ヲ謝絶ストスレハ如何今後露国ノ債
三前項ノ年賦払代金ハ露国政府カ日本ニ於テ発行シタル公	モ知ルヘカラズ是レ熟慮スヘキノ三ナリ
払ト為スモノトス	ナル変化ヲ惹起シ公債募集ヲ不利トスルノ事情ヲ生スルヤ
法ハ支那政府ヨリ仕払ハルヘキ金額及年限ニ応シ年賦仕	来年ヲ待タザルヲ得ズ時局ノ変化ニ依テハ我経済界ハ如何
九千五百五十六留ニ相当スル日本貨幣)トシ其ノ仕払方	得ルノ余地アルヤ否サヘ覚束ナキ位ナリ残額七八千万円ハ
那政府ヨリ受取ルヘキ償金元利金額(二億九千三十九万	ヲ引受ケザルヲ得ズ然ルニ本年内ニハ四五千万円ヲ募集シ
二該支那債券譲受代金、露国政府カ一九一六年六月以後支	支那債券ノ譲与ヲ受クル代リニ一億三四千万円ノ露国公債
債券ヲ直ニ日本銀行ニ引渡スモノトス	<u>ー</u> ナリ
団匪事件償金元利受領ノ権利ヲ日本銀行ニ譲渡シ該支那	スル権利ヲ一層強力ナラシムルニ過ギズ是レ熟慮スヘキノ
一露国政府ハー九一六年六月以後支那政府ヨリ受取ルヘキ	対スル権利ノミ而カモ新ニ得ルノ権利ニアラズシテ従来有
甲案	此ノ如キ厚意ヲ表シタリトシテ日本カ得ヘキ代償ハ支那ニ
	イチタオ目
レ熟考スへキノーナリ	石井外相閣下
日本ハ此ノ如キ非常ノ厚意ヲ露国ニ表スルノ必要アルヤ是	時敏
ニテ支払ヲ受クルコトトナルナリ	六月三日
本ハ露国ニ供給シタル軍需品ノ代金ヲ二十五ヶ年ノ長年賦	煩ハシ度候 不具
発行スル公債元利償還ニ充当スルコトトナルヲ以テ結局日	迷ヲ生シ来リ候利害別紙之通筆記シテ供高覧候間猶賢慮ヲ
キ金額ハ軍需品代金支払ノ為メ露国	啓露国ノ対支債権譲受ニ関シテハ深思スルニ随ヒ小生
大要別級甲乙二案ノ外ナカルヘシ左スレハ露国カ支那ヨリ	
クルトシテ其方法ヲ按スル	
サレタシ	三王力 六月三日 石井外務大臣宛
過クルヲ感ス因テ左ニ熱慮スヘキ要領ヲ列記ス猶廟議ヲ凝	八月三日
前途頗ル困難ナルヲ覚ユ特ニ大蔵大臣ノ責任余リニ重大ニ	シ外ニ手数料一分半位ヲ欲スルモノノ如シ
モ此交渉ヲ成立セシムヘシト考ヘシカ静思黙考スルニ随ヒ	但大体ノ意向ヲ内開スルニ期限一ケ年割引歩合年六分ト
ノ実行ニ至大ノ効果アルヘキヲ感シ如何ナル方策ヲ講シテ	三、条件ハ露国側委員ト銀行団代表ト直接交渉スヘシ
当初露国ノ対支債権譲与ノ説ヲ聞キタルトキハ我対支政策	二、発行時期ハ七月中旬頃
露国ノ対支債権譲渡問題ノ利害	一、露国大蔵省証券約五千万円ヲ日本ニテ引受クルコト
(附属書)	記
註 内田良平電報写ハ記録ニ存セズ	外務次官 幣原喜重郎殿
御承知歟ハ知ラザレドモ御参考ニモト封入差上候	大蔵次官 菅原通敬(印)
追而別紙内田良平電報写ハ今朝支那浪人中ノ一人持来候(大正五年六月一日
四二六	二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五九

額トス別表ノ如 五年手取金額九十円利率五分五厘ノ発行条件トスル ハ一億四千七百四十七万一千三百五十二留ニ相当スル金 一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三五九 <u>۲</u> キ

計算シタルモノナリ若シ之ヲ割引購入スルモノト 右金額ハ支那債券ヲ額面ヲ以テ購入スルモノ ハ夫丈ケ金額ヲ減スルモノトナルヘシ ኑ トシセテ

千三百万円ノ露国大蔵省証券ハ前記公債ノ払込ニ代用ス六襲ニ発行シタル千五百五十万円及目下発行計画中ナル四 ルコトヲ得セシムルモノトス

証言ヲ与フルニ非ザレハ発行困難ナルヘシ テ必要ノ場合ニハ政府又ハ日本銀行ニ於テ買上クヘシトノ 本案ニ依レハ露国大蔵省証券ハ二十五箇年期限トナ N ヲ Û

ナ スルトキハ新ニ発行スル額ハ八千八百九十万円トナル計算 行 軍艦売却代金仕払ノ為発行シタル千五百五十万円及今次発 セントスル四千三百万円ヲ此ノ内ニ包含セシムル モノト

Z 案

____ 露国政府ハ日本ニ於テ発行シタル露国公債ノ償還資金ニ

ルコトヲ得セシムルモノトス

千三百万円

六日本政府及露国政府ハ支那政府及関係銀行団ニ対シ露国

国公債ノ元利償還ヲ行ハシム

那ヨリ受取リタル償金元利ノ年賦仕払額ヲ限度トシテ露

政府カ支那政府ヨリ受取ルヘキ団匪事件償金元利

二 九

直接

一六年六月以後ハ日本政府ノ指定スル日本代表者ニ

七日本銀行ハ毎月末保管金残高表ヲ調製シ日本政府ヲ通

2

テ露国政府ニ報告スルモノトス

ニ交付セシムルコトニ協定スルモノトス

三六〇

六月十日

菅原大蔵次官宛

間ニ交渉中ノ

、軍需品 注

文契約ニ関スル件 露国側ト我陸軍省ト

附属書

使宛覚書案

軍絨軍靴及軍鞍供給契約締結方ニ関スル露国大

註

別表省略

ノ露国大蔵省証券へ前記公債ノ払込ニ代用 ス

ノ趣了承就テハ別紙案ノ通リ露国大使ニ覚書ヲ以テ申

入可

五日本政府ハ日本銀行ヲシテ露国公債ノ償還計画ニ従ヒ支 然卜存候処貴見一応承知致度此段及照会候也

(附属書) 軍絨軍靴及軍鞍供給契約締結方ニ関スル露国大使宛覚書案

備等ノ関係上此際速カニ各工場ニ注文ヲ発スルニ非ザレバ 至ルマテニハ猶ホ相当ノ日時ヲ要スベシ然ルニ予テ露国ヨ 露国大蔵省証券三億千五百万円ヲ帝国市場ニ於テ発行ス 引受困難ナルニ付該軍需品注文ニ関スル契約ハ帝国陸軍省 ニ至ラザル処該軍需品ノ供給ハ製造原料ノ仕入及作業ノ準 千三百万円ニ該当スル分)ニ関シテハ未タ契約締結ノ運ビ リ帝国陸軍省ニ申出デタル軍絨軍靴及軍鞍供給(価格約四 政府ニシテ之ニ異議ナキニ於テハ右大蔵証券発行 蔵省証券ヲ帝国市場ニ於テ発行スルコトニ同意スヘシ露国 万円ノ支払方法ニ付テハ此際前記三億千五百万円募債問題 モ必要ナリトス帝国政府ハ右注文品ノ代価タル約四千三百 関シテハ前回ノ ノ決定ヲ待タズシテ交渉ヲ進行シ該金額ニ該当スル露国大 ト露国側トノ間ニ出来得ル限リ速カニ之ヲ締結スルコト最 ノ件ハ帝国政府ニ於テ目下考量中ニ属シ之カ決定ヲ見ルニ 例 ニョリ露国側ヨリ帝国銀行団ニ 直接交涉 ノ条件ニ N

四二九

政機密送第五九号

本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三六〇

本件ニ関シ本月一日附官房秘乙第一〇五二号ヲ以テ御照会

四二八

充当スル目的ヲ以テ一九一六年六月以後露国政府カ支那 政府ヨリ受取ルヘキ団匪事件償金元利ヲ日本政府ノ管理 託保管セシム ニ委任スルコトヲ承諾シ該支那債券ハ之ヲ日本政府ニ委

二日本政府ハ其ノ指揮監督ノ下ニ日本銀行ヲシテ該支那債 券ヲ保管セシメ且該債券カ代表スル所ノ権利 金ヲ支那政府ヨリ受領セシメ又之ヲ保管出納セシム ○一年最終議定書ノ定ムル所ニ依リ仕払ハルル所ノ 三基 キー九 , 該 償

三露国政府カ日本ニ於テ発行スル公債ノ金額ハ露国政府カ (註) 四千七百四十 手取金額九十利率五分五厘ノ発行条件トスルトキハー億 利月賦済崩ト為シ得ヘキ金額トス即チ償還期限二十五年 支那政府ヨリ受取ルヘキ償金元利ノ年賦仕払額ヲ以テ元 七万一千三百五十二留ニ相当スル金額ト ス

備考

計算シタルモノナリ若シ之ヲ割引購入ス 右金額ハ支那債券ヲ額面ヲ以テ購入ス ハ夫丈ケ金額ヲ減スルコトトナル \sim シ N N モ モノト シト シ テ 七

四義ニ発行シタル千五百五十万円及目下発行計 画 日中ナ ル 四

Representation of material a factories, any delay in the conclusion. Japan Fr. 2 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	signed as speedily as possible. With this end in view, the Minister of Finance proposes that in respect of	rro-memoria The scheme involving the transfer to Japan of
 BIID マシコース希望、大学の「ショーン、(本学)」、「「「「「」」」、「「」」、「「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」	<u>.</u> . г	軍靴軍鞍供給契約締結方ニ関スル件
 ローニオポーが会手していた。 ローニオポーが、した、株田の一三百万円ノチル(1)、「オーニ百万円ノチル(1)」 マカートの希望ス九モ追ア前記三億千五百万円ノチル(2)、「株田の一部の(1)」 マカートの希望ス九モ追ア前記三億千五百万円ノチル(2)、「株田の一部の(1)」 マカートの希望ス九モ追ア前記三億千五百万円ノチル(2)、「株田の市地(1)」 マカートの希望ス九モ追ア前記三億千五百万円ノチル(2)、「株田の市地(1)」 マカートの希望ス九モ追ア前記三億千五百万円ノチル(2)、「米田の市地(1)」 マカートの希望ス九モ追ア前記三億千五百万円ノチル(2)、「ホーム、(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの生活(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンの上菜(1)」 マカーンのた菜(1)」 マカーンの(1)」 マカーンの(1)」 マカーン(1)」 マカーン(1)」	if not insurmountable, difficulties in the executic such orders. Accordingly it is believed to be hi	六月二十七日 在本邦露国
 ロニー 本用: たかってき (中国) (小口) (二) 本用: たかって (中国) (小口) (二) 本用: たかって (中国) (小口) (小口) (小口) (小口) (小口) (小口) (小口) (小口	factories, any delay in the conclusion of the arra ment will place Japanese manufactures under ser	円ノ分ハ之ニ繰入レラルベキモノト諒解セラレタシ
 ニニニー ホデニケテショトシネ語な医療の調査局部にして、「「二」、ボデニケシューシンシューシンシューシンシューシンシンニンニー、パーニーは「「二」、ボデニー」、パーニー」は「「「二」」」」」」」」」」」」」」」、「「二」」」」」」」」」」」」」」」	ders the	前記支那団匪事件償金受領問題決定ノ上ハ本件二千七百万日本ニ於ケル銀行団ニ直接交渉アランコトヲ希望ス尤追テ
 111 本邦4 於了各間、人類である。 111 本邦4 於了各間、人類である。 111 本邦4 於了各間、人類である。 111 本邦4 於了名(1)、長澤電品(1)、長澤電品(1)、長澤電品(1)、長澤電品(1)、長澤電品(1)、長澤電品(1)、長澤(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、	view of the preparations required for underta	右大蔵省証券発行条件等ニ関シテハ前例ニ依リ露国側ヨリ
IIII 本邦ニ族テ各国ノ兵器電告調護関係一件 三 ニ有之且此分ニ付テモ其仕払方法確定スル ジンコトラ希望ス北を追テ前記三億千五百万円ノ券(1) 二有之且此分ニ付テモ其仕払方法確定スル アシコトラ希望ス北を追テ前記三億千五百万円ノ券(1) 「二十三日 整原大連常案 アシンコトラ希望ス北を追テ前記三億千五百万円ノ券(1) 「二十三日 整原大連常案 アシンコトラ希望ス北を追うした。 (六月二十三日 整原大連常案 アンコトラ希望ス北大蔵省案案 (六月二十三日 整原大連常案 アシンコトラ希望ス北大蔵省案案 (六月二十三日 整原大道常案 アンコトラ希望ス北大蔵省案案 (六月二十三日 整原大道常案 アンコトラ高型の (六月二十三日 整原大道常案 アンシテ会部の前に、大市家国大使館付款(1) (二十二日 一 本が主要素 アンテ京湾目がた (二十二日 整原大学業) アンテ京湾部国大使館 (二十二日 参原 アンテ京湾部国大使の電話 たいニュー (二十二日 参原 アンテ京湾部市会社会社会社会社 (二十二日 大康、二十二日 大康次官 音 中田デタルデーボンロー (二十二日 一 本が支) 中田デタンティー (二十二日 一 本が支) 市会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社	approximately to 27,000,000 Yen, and which illy awaiting conclusion. It is apprehended	ナリト認ム露国政府ニ於テ之ヲ決行スルノ意アルニ於テハ巨丁E本市塚ノお沙ハ山際返メニ系イブ冨匡ニ耳ラ最有禾
1二 本邦=於字各国ノ兵器軍衛昌興運関係一件 三六 1二 本邦=於字各国ノ兵器軍衛昌興運関係一件 三六 1二 本邦=於字各国ノ兵器軍衛昌興運関係一件 三六 1二 本井四子三百万円ノ分へ之ニ鍵入レラルへキ 2六、一六月二十二日 2次ノュトラ希望ス北を追字前記三億千五百万円ノ募へ「其後御説 11二 本井四提客 2次、一六月二十二日 2次 11二 本井四提客 2次 11二 本井三百万円ノ分へ之ニ鍵入レラルへキ 2次 11二 本井三百万円ノ分へ之ニ鍵スレラルへキ 2次 11二 本井三百万円ノ分へ之ニ鍵スレマシルへキ 2次 111 本井三百万円ノ分へ之ニ鍵スレマシル、 2次 2次 2次 2次 2次 2次 2次 2次 2	it is u place	一下一下方, たれ、上部でカ、畑で方客国、双、皮可引大蔵省証券ヲ日本市場ニ発行スルコトニ同意スヘシ而シテ
1:1<本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六1	as been called to the question	額ニ該当ス
 コニー 本邦= 於テ合国ノ兵器軍器高調運関係一件 三式二 ニコニー 本邦= 於テ合国ノ兵器軍器高調運関係一件 三式二 ニコニー 本邦= 於テ合国ノ兵器軍器高具、供給、原料ノー人会作業、準備等ノ関係 二十二日 (二) 二 本件四子三百万円ノ券(11) 二十三日 接受) 二十二日 二十二二十二日 二十二日 二十二二日 二十二日 二十二二日 二十二日 二十二二日 二十二日 二十二日 二十二日 二十二日 二十二日 二十二十二日 二十二十二日 二十二十二十二日 二十二十二十二十二日 二十二十二日 二十二日 二十二十二日 二十二十二日 二十二十二日 二十二十二日 二十二日 二十二日 二十二日 二十二日 二十二日 二十二日 二十二二十二二 二十二二十二日 二十二二十二日 二十二二十二二十二二十二二 二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二二十二	meantime,	仕払方法ニ付テハ此際前記支那団匪事件償金受領権譲受問
□==O □==O □==O □==O □==O □==O □==O □==O	to occupy some length of time before	ナリトス帝国政府ハ右注文品ノ代価タル約二千七百万円ノニイ言注フラ系ハトラノビージンニスニ系系ンフラーダリン
DIFICULT DIFICULT CONTRIPUTED TRANSPORTED TO TAKE THE DETERMINENT WITH THE TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKE TAKEN TRANSPORTED TO TAKEN TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TRANSPORTED TO TAKENT TRANSPORTED TO TAKENTS TRANSPORTED TO TAKENT T	discussion between the two Governments a	计亥主文契約、出来レ艮リ速カニ之ヲ帝吉スレコ 「此際速カニ注文スルニ非ザレバ引受困難トナルノ
the Russian share the Russian s	to crediting the Kussian Government with	原料ノ仕入及作業ノ準備等ノ
 	Russian share of the Box	=約二千七百万円)ニ関シテハ未ダ契約締結ノ運ビニ
中 二 中 二 二<	ヨリ帝国陸軍省ニ申出デタル軍靴及軍鞍供給	ニ限リ軍級ノ注文ハ見合ハスノ意図ナル
テ 渡受クルノ件が 常 、 市 、 大 正 五 年 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		申出デタル所ニ依レハ今回ノ注文ハ軍靴及軍鞍
支那 第 支 第 本 大 支 第 本 大 定 第 か 第 た 大 定 第 か 第 た 二 支 第 定 第 方 第 方 第 支 第 第 1 大 正 五 2 二 十 大 正 五 2 二 十 大 正 五 二 大 正 五 二 大 正 五 二 大 正 五 二 大 正 五 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	ルノ件ハ	ŀ
露 二 露 カ解決セラ 車 大正五年 方解決セラルル 二 変 軍靴軍 第 一 大正五年 二 大正五年 二 大正五年 二 市 二 市 二 市 二	支那ヨリ受領スベキ団匪事件償金ニ対スル権利ヲ日本ニ	対シ大蔵省証券発行ノコトハ自然其内ニ包含セシムル
エーク 第 第 本 第 本 第 本 第 年 <	注文スル軍需品	問題ヲ先ツ急速ニ解決シ従テ軍絨軍靴等代金四千参百万円
(対属書) (対成語音) (対応音音) (対応音) (対応音) (対応音) (対応音) (対応音) (対応音) (対応音)	鞍供給契約締結方ニ関スル露国大使宛覚書大蔵省	合致候通支那団匪事件償金ニ対スル露国ノ権利ヲ譲受クル
コリノ照会ニ基キ露国大使へ御交渉可相成覚書 コレクラ以テ露国大蔵省証券発行ニ関シ と フレタシ 本件四千三百万円ノ分ハ之ニ繰入レラルヘキ た 二七三号 「 二七三号 「 二七三号 「 二七三号 (六月二十三日 幣原外務次官宛」 た 二七三号 「 二七三号 (六月二十三日 一二七三号 (六月二十三日 一二七三号 (六月二十三日 本 第国大蔵省 文 に 方 二 大 武 名 二 大 蔵 省 案 送 付 越 ノ 供 に の 本 (六 月 二 十 二 日 下 間 大 成 省 案 送 付 越 ノ 供 に の 次 の 、 に 二 七 一 一 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		案ニ対シ当方意見御問合相成候処本件ニ関シテハ其後御談
機密第五九号ヲ以テ露国大蔵省証券発行ニ関シ 機密第五九号ヲ以テ露国大蔵省証券発行ニ関シ 機密第五九号ヲ以テ露国大蔵省証券発行ニ関シ	官 幣原喜重郎殿	爨キニ当方ヨリノ照会ニ基キ露国大使へ御交渉可相成覚書
 一二七三号 (六月二十三日接受) 一二七三号 (六月二十三日接受) 大正五年六月二十二日 幣原外務次官宛り 六月二十二日 幣原外務次官宛り 六月二十二日 幣原外務次官宛り 二十二日 幣原外務次官元 二十二日 幣原外務次官元 二十二日 幣原外務次官元 二十二日 幣原外務次官元 二十二日 幣原小 二十三日 一十二日 二十三百万円/分、之ニ線入レラルへキ 一二七三号 (六月二十三日接受) 大正五年六月二十 二十三日 二十三日 二十三日 二十三日 二十三日 二十三日 二十三日 二十三日 二十二日 二十二十二日 二十二十二日 二十二十二日 二十二十二日 二十二十二十二日 二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	大蔵次官 菅原通敬	
 ■ 「「「」」」」」 ■ 「」」」」 ■ 「」」」」」 ■ 「」」」」 ■ 「」」」」 ■ 「」」」」 ■ 「」」」」 ■ 「」」」 ■ 「」」 ■ 「」 ■ 「」」 ■ 「」 ■ 「」」 ■ 「」 ■ 「」 ■ 「」」 ■ 「」 <li< td=""><td>大正五年六月二十二日</td><td>·</td></li<>	大正五年六月二十二日	·
国書 軍靴及軍族共給契約締結方ニ関スル露国大吏范 コトヲ希望スルヤ否 六月二十二日 幣原外務次官宛り ハ本件四千三百万円ノ分ハ之ニ繰入レラルヘキ 約ヲ締結スルニ躊躇 ハ本件四千三百万円ノ分ハ之ニ繰入レラルヘキ 件償金受領権譲受問 マラレタシ カ解決セラルル以前 三対スル大蔵省案送付越ノ件 三六一 コ有之且此分ニ付テ 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六一	至急御問合ハセ相成度此段及照会候也	
ニ対スル大蔵省素送け返ノキ ニ対スル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ ニガスル大蔵省素送け返ノキ	コトヲ希望スルヤ否ヤ別紙覚書案ノ趣旨ヲ以テ露国大供	附属書 軍靴及軍姲共給契約篩結方ニ関スル露国大吏范
品供給契約締結方ニ関スル露国大使宛覚 ホーーニー 幣原外務次官宛リ ホーーニー 幣原外務次官宛リ ホーーニー 幣原外務次官宛リ ホーーニー 幣原外務次官宛リ ホーーニー 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	シ併セテ之ニ対スル仕払資金トシテ大蔵省証券ヲ発行コ	
六月二十二日 幣原外務次官宛 難トナルニ至ルヤモ 一本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六一 離トナルニ至ルヤモ		
 マークログラン マークログラン マークログラン マークログラン マークログラン マークログラン 中償金受領権譲受問題ガ解決セラルル迄ニハーク、本件四千三百万円ノ分ハ之ニ繰入レラルヘキ 内マが結スルニ躊躇スル模様ニ有之然ルニ前の方が見た。 マークログラン 中償金受領権譲受問題ガ解決セラルル迄ニハーク、 マークログラン マークログラ	ナルニ至ルヤモ	六月二十二日 幣原外務次官
セラレタシハ本件四千三百万円ノ分ハ之ニ繰入レラルヘキニャンに、「「「「」」」」、「「」」」、「「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」	ν	
ハ本件四千三百万円ノ分ハ之ニ繰入レラルヘキ 約ヲ締結スルニ躊躇スル模様ニ有之然ルニヲ希望ス尤モ追テ前記三億千五百万円ノ募債問 ニ有之且此分ニ付テモ其仕払方法確定スル本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六一	ル迄ニハ	ノト諒解
ンコトヲ希望ス尤モ追テ前記三億千五百万円ノ募債問 ニ有之且此分ニ付テモ其仕払方法確定スルニアラザレーニ 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六一	ニ躊躇スル模様ニ有之然ルニ	ハ本件四千三百万円ノ分ハ之ニ繰入レラ
	スルニアラザレ	ンコトヲ希望ス尤モ追テ前記三億千五百万円ノ
	四三〇	

四三二

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六二

1二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六三

is reached on the scheme of a larger loan to which that the terms and particulars of the issue consideration of the Russian Government, it is hoped ing proposals commend themselves to the favourable at the present moment evidently suggest the advisain Japan. The conditions of the Japanese money-market Bills for a corresponding amount be issued forthwith of 27,000,000 yen, the negotiations be at once proceedof separate discussion, the Treasury Bills to be presreference has been made and which is to form subject Finally, it is to be understood that if an agreement Group as in previous instances of similar transactions. Russian representatives and the Japanese banking Russian Treasury Bills for the purpose named, will ment of such financial operations. bility for the Russian Government of an early settlethe Boxer Indemnity, and that the Russian Treasury larger plan affecting the question of the transfer of ed with apart from the mode of payment for those orders to an amount ently issued will be incooperated in that loan. discussed and determined directly between the eventual outcome of the Should the foregoof the the

if the Russian Government have already received a will simultaneously pass the money thus received to ing Paragraph in exchange with the said Chinese ernment the purchase-money indicated in the precedpurchase-money are reserved for further examination. portion of the instalments due within a period from arrangement (viz. 174,122,407 roubles): provided that Indemnity. to be paid by the Chinese Government for the Boxer deposit will bear the same rate of interest as that the Bank of Japan, and deposit it therewith. Bond, and the Russian Government, on their part, ment and determination of the exact of amount of such pondingly reduced, and provided also that the assessmoney of the Chinese Bond aforesaid will be corres-January to May of the present year, ble to the Russian Government under the existing Indemnity falling due after January, 1916, and payastanding instalments of the principal of the Boxer will be equivalent to the total sum of all the out-N The Bank of Japan will pay to the Russian Gov-The purchase-money of the said Chinese Bond the purchase-Such

> Department of Foreign Affairs, June 27, 1916. (欄外註記)

交」 「六月二十七日幣原次官ヨリ露国大使クルペンスキ – 氏 ニ 手

三六三 六月二十七日 在本邦露国大使館宛

露国ノ対支債権譲渡問題ニ関シ覚書ヲ以テ申

▶ 八ノ件
□ 右説明書ノ原案
□ 右覚書ノ原案
□ 右覚書ノ原案

Memorandum.

1. The Russian Government will transfer to the Bank of Japan the right to receive from the Chinese Government all the outstanding instalments of the principal and interest of the Boxer Indemnity falling due to the Russian Government after June, 1916, and will deliver to the said Bank the Chinese Bond representing such right.

4. The Russian Government may withdraw from the Bank of Japan, only as much amount of the principal and interest of the said deposit as is equivalent to the sum of the annual instalments to be paid by the Chinese Government in pursuance of the Final Protocol of 1901 respecting the Boxer Indemnity.

5. The Russian Government will issue in Japan a Loan for an amount equivalent to 70% (viz. 121,885,685 roubles) of the total sum of all the outstanding instalment of the principal of the Boxer Indemnity as aforesaid (viz. 174,122,407 roubles): provided that the Russian Treasury Bills of 15,500,000 yen previously issued in Japan will be accepted as instalments of such Loan. The Loan will be redeemed by an annual amortization worked out on the basis of the same period and of the same rate of interest as the annual instalment of Boxer Indemnity.

6. For the purpose of providing the fund for the annual amortization mentioned in the preceding Paragraph, the Russian Government will withdraw the principal and interest of the deposit in the Bank of Japan to the extent defined in Paragraph 4, and the

四三三

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三六三

四三二

四三五

Memorandum.

一二本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六三

右覚書ノ説明書 1 - minin

4	4			
vations on the	Explanatory Observations on the			(附属書二)
121, 885, 685. 40	168, 514, 076. 61	290, 399. 762. 01		Total
13, 466, 504. 42	994, 582. 15	adjusted 202.64	13, 466, 504. 42	25
12, 540, 137.39	1,920,746.54	holonoo //	26,006,641.81	24
11,677,671.30	2, 783, 212.63		37, 684, 313. 11	23
10, 874, 522.56	3,586,361.37	*	48, 558, 835.67	22
10, 126, 611.54	4, 334, 272. 39	"	58,685,447.21	21
9, 430, 139.18	5,030,744.75	*	68, 115, 586. 39	20
8,781,567.72	5,679,316.21	*	76, 897, 154. 11	19
8,177,602.69	6, 283, 281. 24	*	85,074,756.80	18
7,615,176.24	6,845,707.69	14, 460, 883. 93	92,689,933.04	17
2,951,995.01	7,063,730.24	"	95, 641, 928.05	16
2,748,967.28	7,266,757.97		98, 390, 895. 33	15
2,559,903.08	7,455,822.17	*	100, 950, 798.41	14
2,383,842.04	7,631,883.21	"	103, 334, 640.45	13
2, 219, 889.86	7, 795, 835. 39		105, 554, 530. 31	12
2,067,213.72	7,948,511.53	"	107, 621, 744.03	11
1,925,038.11	8,090,687.14		109, 546, 782.14	10
1, 792, 640.83	8, 223, 084. 42	*	111, 339, 422.97	9
1, 669, 349.36	8, 346, 375. 89	"	113, 008, 772. 33	00
1,554,537.44	8, 461, 187. 81	"	114, 563, 309.77	7
1,447,621.88	8, 568, 103. 37	"	116, 010, 931. 65	6
1, 348, 059. 59	8, 667, 665. 66	"	117, 358, 991.24	ហ
1, 255, 344.84	8,760,380.41	*	118, 614, 336. 08	4
1, 169, 006. 69	8,846,718.56	*	119,783,342.77	ω
1,088,606.56	8, 927, 118. 69	"	120, 871, 949.33	2

ŝ	The Russ	The Russian Government will undertake to noti-	dertake to noti-	interest of 4%)	
1	Vear	Outstanding sum at	Annual instalments	Annual instalments divided into	ts divided into
	1.044	year		Interest	Principal
1	д	121, 885, 685. 40	10,015,725.25	9, 001, 989. 18	1, 013, 736. 07
	2	120, 871, 949.33	"	8, 927, 118. 69	1,088,606.56
	ω	119, 783, 342. 77	"	8, 846, 718. 56	1, 169, 006. 69
	4	118, 614, 336. 08	*	8,760,380.41	1, 255, 344.84

(for 9 years) R. 14,460,883.93	out any further act of special authorization or other
Annual instalments (for 16 years) R. 10,015,725.25	of Japan on behalf of the Russian Government with-
total principal of the Indemnity)	agraph will be undertaken and conducted by the Bank
Face-value R. 121,885,685.40 (Equivalent to 70% of the	7. All the processes mentioned in the preceding Par-
年賦償還金額表	the interest of 4%.
(附属書一)	of the Russian Loan as premium in addition to
表及右覚書ノ説明書ヲ手交セラレタリ	(c) Balance left: to be paid to the subscribers
クルペンスキー氏ニ右英文覚書ト共ニ左掲ノ年賦償還金額	on account of the transaction.
註 六月二十七日午後三時過幣原外務次官ヨリ在本邦露国大使	Japan to cover the expenses which it may incur
Paragraph 1 of this Memorandum.	(b) 1/1000 thereof: to be paid to the Bank of
Russian share of the Boxer Indemnity as defined in	amortization of the said Russian Loan.
concerned, of the transfer of the right to receive the	(a) 70% thereof: to be applied for the annual
fy the Chinese Government and the Group of Bankers	amount thus obtained will be applied as follows:

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六三

formalities.

Net yield 7.3856%

(premium 3.3856% besides the

四三四

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六三

of the Boxer Indemnity, and to apply all the outstandover the Chinese Bond representing the Russian share Memorandum is that the Bank of Japan is to take to leave nothing in the balance. terest of the proposed Russian Loan in Japan, so as from China, for the payment of the principal and ining instalments of such Indemnity, as they come The main feature of the scheme suggested in the E.

the market.

public cannot be expected to subscribe for a loan be-

low the reasonable level of the return obtainable in

Should the present scheme be so modi-

on the amount of yield to be realized.

The general

the forthcoming Loan, which, on its turn, will depend arrangement will after all depend on the success of however be borne in mind that the success of the rangement may, if necessary, be modified.

It must

四三六

should naturally be put below the sum of the Indemthe amount of issue of the contemplated Russian Loan of the Department of Finance. over from this Government by the "caisse de dépôt" Japanese portion of the Indemnity was recently taken was actually adopted when the Chinese Bond for the at 70% of the latter. obtaining in Japanese money market. Accordingly, pan should bear such a rate of interest as reasonably conceded that the Russian Loan to be floated in Jaare worked out on the 4% basis. It will however be The annual instalments of the Boxer Indemnity In the present scheme, the former is calculated The same basis of calculation

low 90%.

net proceeds to the Russian Government will fall be-

instance, in case of the reduction of the rate of 7.3856 such modification will prove to be only nominal. For ment, and consequently the advantages aimed at by net proceeds to be credited to the Russian Governbe correspondingly lowered, to the prejudice of the the amount of issue, the issue price of the Loan must fied as to reduce the rate of interest and to increase

% adopted in the scheme, it is not unlikely that the

The conditions formulated in the proposed ar-

the bankers claimed to obtain the discount rate of 6% the Russian Treasury Bills in Japan, and found that the Japanese bankers on the question of the issue of

The Department of Finance recently approached

success of the Loan running for 25 years at any return less than 7 1/2% per annum it is believed to be extremely difficult to secure the yield is expected for a short-term loan of one year, yield thus amounting to 7 1/2 per annum. per annum, and a commission of 1 1/2%, the total If so much

五、露国政府カ日本ニ於テ発行スル公債額ハ支那債券カ代

ル年賦金ニ相当スル元利金ヲ引出スコトヲ得

一年最終議定書ノ定ムル所ニ従ヒ支那政府ヨリ支払ハル

表スル権利ニ基キー九一六年六月以後支那政府ヨリ受領

二一、八八五、六八五留)ニ相当スルモノトシ団匪事件

ノ償金ノ支払ハルルト同一期間ニ同一年利ニテ元利済崩

スヘキ元金額(一七四、一二二、四〇七留)ノ七割(一

年賦法ニ依リ償還サルヘキモノトス但シ嚢ニ発行シタル

千五百五十万円ノ露国大蔵省証券ハ本公債ノ払込ニ代用

Department of Foreign Affairs

June 27, 1916.

(附記一)

右覚書ノ原案

一、露国政府、一九一六年六月以降支那政府ヨリ受領スへ

キ団匪事件償金受領ノ権利ヲ日本銀行ニ譲渡スヘク而シ

六、前項ノ露国公債年賦償還資金、露国政府、第四項ニ依

スルコトヲ得セシムルモノトス

リ日本銀行預金ヲ引出シ之ヲ左ノ通リ処分スルモノトス

⇔支那ヨリ支払ハルヘキ年賦金ニ相当スル金額ノ七割

右ハ日本ニテ発行ノ露国公債ノ年賦償還金ニ充当ス

テ露国政府ハ直ニ該支那債券ヲ日本銀行ニ引渡スヘシ

九一六年一月以後支那政府ヨリ受領スへキ団匪事件償金

三、日本銀行、支那債券ト引換へニ代金ヲ露国政府ニ交付

シ露国政府ハ直チニ其金額全部ヲ日本銀行へ振替預入ス

白残額

総額(一七四、一二二、四〇七留)ニ相当スルモノトス

(1同上ノ千分ノ一

右ハ実費トシテ日本銀行ニ交付ス

四

露国政府ハ此預金ニ対シ団匪事件償金ニ関スル一九〇

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三六三

四三七

分配ス

右ハ日本ニ於テ発行ノ露国公債ニ対シ割増利子ト

・シテ

ルモノトス

二、該支那債券買受代金ハ該債券カ代表スル権利ニ基キー

三六五 三六六 四三九	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六四
Y	当スルモノニ有之候処最近露国大使館武官ヨリ陸軍省へ申
二、小借款ニ関シ協議ヲ進メタキニ付次ノ二点ヲ承知シタ	トノ間ニ注文方交渉中ニ係ル軍靴、軍鞍及軍絨ノ代価ニ該
難キニ付断念ス	万円アリ」ト有之右ハ予メ在本邦露国大使館武官ト陸軍省
一、大借款問題ニ関スル日本提案ハ露国政府ニ於テ肯諾シ	本件ニ関シ往電第二七四号中「目下交渉中ノ分四千三百余
ニ本国政府電訓トシテ次ノ通口頭ヲ以テ申出デタリ	政機密送第一七号
行ノ計画ヲ実行セントシタル際七月十九日露国大使本大臣	文契約ニ関スル件
関シ帝国政府ハ露国ノ回答余リニ遅延スルニ付内国公債発	露国側ト我陸軍省トノ間ニ交渉中ノ軍需品注
往電第三〇九号末段並本年七月三日附政機密送第一八号ニ	イノミー 在露国本
第四三〇号	大臣
経緯通報及露国ノ回答取付方ノ件	註 别紙前揭:付省略
露国公債日本ニ於テ募集ニ関スル交渉其後ノ	知相成度此段申進候也
ミステーイ月二十二日 在露国本野大使宛(電報)	書及附属書ヲ本日在本邦露国大使ニ手交致置候間右様御承
石井外務大臣ョ	本件ニ関シ予テ御協議ノ趣旨ニ依リ別紙写ノ通リノ英文覚
註 別紙へ前掲ニ付省略	政機密送第七四号
紙ニテ御承知相成度此段申進候也	明書ヲ露国大使ニ手交シタル旨通報ノ件
写ノ通ノ覚書ヲ在本邦露国大使ニ交付致置候ニ付委細ハ別	露国ノ対支債権譲渡問題ニ関スル我覚書及説
契約至急締結方並右代金支払方法ニ関シ去月二十七日別紙	三六四 六月二十七日 菅原大蔵次官宛
ニ限リ軍級ノ注文ハ見合スノ意図ナル由ニ有之依テ右注文	·····································
出ニ拠レハ今回ノ注文ハ軍靴、軍鞍(代価約二千七百万円)	外相關下」
蔵相	露国公債ニハ日本ノ金利相当ノ利子ヲ附セザルヲ得ズ故ニ
「露国ト御交渉ノ際必要アラバ左記ノ主意御説明相成度候リ	支那ノ年賦金ハ四分利附ノ計算ナルモ日本ニ於テ発行スル
註 右説明書ノ原案ノ冒頭欄外ニ朱書ヲ以テシタル左ノ添書ア	免レズ
テ困難ナルベシ	利ヲ償還シ過不足ナカラシムル方法ナルニ因リ計算複雑ヲ
亘ル長期公債トナレハ年七分半以下ノ利廻ニテハ募集極メ	リ受取ルヘキ年賦金ヲ以テ日本ニ於テ発行スル露国公債元
分半ノ利廻ナリ一年ノ短期債券ニシテ既ニ然リ二十五年ニ	本案ハ露国所有ノ支那債券ヲ日本銀行ニ譲受ケ今後支那ヨ
六分ノ割引ト一分半ノ手数料ヲ要スル旨ヲ答申セリ即年七	右説明書ノ原案
曇キニ露国大蔵省証券発行ノ交渉ニ対シ日本ノ銀行者ハ年	(附記二)
以下ニ降ラザルヲ得ザルヤモ知ルベカラズ	「大蔵省ト協議ノ上本案文字ニ多少ノ改竄ヲ加ヘタリ」
ニ予定スル利率七分三厘余ヲ低下スルトキハ手取額ハ九十	(欄外註記)
取額ヲ大ニ減少スルノ已ムヲ得ザルニ至ルベシ例ヘハ本案	渡シタルコトヲ通知スヘシ
場ニ準応スル利廻ト為スニアラザレバ応募者ナキヲ以テ手	領スヘキ団匪事件償金ヲ受領スヘキ権利ヲ日本銀行ニ譲
加シ置クモ結局名儀ノミニシテ事実ニ於テハ内地ノ金利相	九、露国政府ハ支那政府及関係銀行団ニ対シ露国政府ノ受
ノ如何ニ在リ故ニ本案ヲ修正シテ利率ヲ低下シ発行額ヲ増	カ露国政府ニ対スルト同一関係ニ立ツモノトス
ハ募債ノ成否如何ニ在リ而シテ募債ノ成否ハ主トシテ利廻	収納方等ニ関シテハ預金部ハ日本銀行ニ対シテ日本銀行
本案ノ条件ハ修正ノ余地ナキニアラズト雖畢竟此事ノ成否	代価及之ヲ預金部預金へ振替方、預金ノ引出方、実費ノ
シ時ノ例ニ依リ券面ノ七掛トシ計算セリ	ニ大蔵省預金部ニ譲渡スヘシ
ルヲ得ズ本案ハ先年日本政府ノ支那債券ヲ預金部ニ譲渡セ	八、日本銀行ハ露国政府ヨリ譲受ケタル支那債券ヲ更ニ直
発行総額ハ支那ノ償金総額ヨリ多少割引シタルモノナラザ	七、前項ノ手続ハ総テ日本銀行ニ於テ当然之ヲ執行スヘシ
四三八	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六三

三六八 三六九 四四一	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六七 一
露国公債募集ニ関シ条件緩和交渉方露国政府	対シ至急本問題ニ関スル露国政府ノ意向御突留ノ上返電ア
三六九 八月九日 石井外務大臣宛(電報)	期ノコトニ漸ク取計ラヒ置ケリ就テハ貴官ハ露国当局者ニ儀ナキニ立至レル処当省ヨリ大蔵省ニ協議ノ結果一両日延
モー週間前後ヲ出デサルベシト信ゼラルト謂ヘリ	銀行団トノ関係上日本内国債発行ノ協議ノ歩ヲ進ムルノ余
ノ旅行ハ総テ秘密ニセラルルヲ以テ正確ニ	デニ在本邦露国大使ヨリ何等申越無之ニ付大蔵省ニ於テハ
トノコトナリ尚ホ同氏ハ大蔵大臣ノ帰着ニ関シ目下此種ノ	往電第四三〇号ニ関シ露国回答ノ期限タル七月三十一日マ
ルヲ以テ同大臣ノ帰着迄露国政府ノ回答ヲ猶予セラレタシ	第四四四号
ハ露国大蔵大臣ノ英国ニ於ケル使命ノ結果ト関聯スル処ア	向突止方訓令ノ件
八月四日 Kozakoff ノ丸毛参事官ニ語ル所ニ依レハ本件	露国公債日本ニ於テ募集ニ関シ露国政府ノ意
貴電第四四四号ニ関シ	三六七、八月一日(在露国本野大使宛(電報)
第六三五号(八月五日接受)	K (
予方露国側希望ノ件	アル様御措置アリタシ
露国公債問題ニ関シ露国蔵相ノ帰国迄回答猶	ノ御裁量ニヨリ右露国当局者ニ御談話ノ上可成速カニ回答
三六八 八月四日 石井外務大臣宛(電報)	露国ノ回答ヲ七月三十一日以前ニ得タキ希望ナルニ付貴官スヘキ筈ニテ且帝国大蔵省ニ於テハ前記ノ如ク本件ニ対シ
	ハ露国大使ヨリ
命ニヨリ將原次官へ内淡ノ詰果ニヨリ発電一一本電ハ大正五年八月一日富田大蔵書記官来省菅原大蔵次官ノ	オニ当ル(日本ノ提案ハる強ニ当ル)
	行団ノ手数料四
リタシ	トトセリ而シテ其公債ハ期限五ケ年利率五分半発行価格
「クレヂット」ヲ以テ露国ノ発行スル公債ヲ購入シ得ルコ	発行スルコトヲ得ヘシ
出シ得ル仕組ナルガ若シ為替ノ売出不可能ノ場合ニハ右留	五千万円内外ナリ但シ相当期間ヲ経過シタル後ハ重ネテ
留ノ「クレヂット」ヲ与ヘ之ニ対シ米国銀行団ハ為替ヲ売	三、差当リ日本市場ニ於テ発行シ得へキ露国大蔵省証券ハ
万弗ニ付其償還方法トシテ露国ハ米国銀行団ニ一億五千万	スヘジ
ナル計算ニテ案出セラレアリ即露国ノ「クレヂット」五千	日ニ於テ確言シ難シト雖モ大蔵大臣ハ可成其成立ニ斡旋
月露米間ニ成立シタル「クレヂット」ニ比シ露国側ニ有利	期日ニ至リ市場ノ状況如何ニョリ決スヘキモノニシテ今
団匪事件償金支那債券譲渡ニ関スル日本提案ト雖モ本年六	二、従来発行セラレタル露国大蔵省証券ノ借換ニ付テハ其
加シ置キタリ	テ断念セラレタルハ日本政府ノ了解ニ苦ム所ナリ
尚ホ右ニ附加シ本大臣、右ノ歩合ニ関シ次ノ通ノ説明ヲ附	ホ交渉ノ余地アルニ拘ラズ日本提案ヲ肯諾スル能ハズト
スルコト	本ニ於テ発行スベキ露国公債金額其他発行条件ノ如キ猶
自以上ノ外ノ条件ハ露国委員ト日本側銀行団ト直接交渉	一、団匪事件償金支那債券譲渡ノ問題ニ関シ日本提案ハ日
ノ新規注文ノ仕払ニ充当スルコト	使ニ大要次ノ通ロ頭ヲ以テ回答シタリ
⇔新規発行ノ露国大蔵省証券払込金額ノ大部分ハ軍需品	右ニ対シ本大臣、大蔵大臣ト協議ノ上七月二十一日露国大
(割引歩合年六分手数料一分五厘期限一ヶ年トス	タシ
七月三十一日限リ回答セラレタシ	シタキニ付此点ニ関シ日本大蔵大臣ノ意向ヲ承知シ
ニ便宜ヲ与フヘキニ付左ノ条件ニ同意セラルルニ於テハ	際ヨリ期限延長ノ諒解アリシガ之ヲ更ニ一ケ年延期
トスル日本公債発行ヲ後廻シト為シ露国大蔵省証券発行	乙 是マデ日本市場ニ於テ発行ノ露国短期公債ハ起債ノ
スルコトヲ露国政府希望セラルルニ於テハ目下着手セン	凡幾何ノ額ヲ発行シ得ルヤ
若シ此場合ニ於テ露国大蔵省証券ヲ日本市場ニ於テ発行	(甲)新タニ日本ニ於テ短期露国公債ヲ起ストシテ此際大)

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三六六

四四〇

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 ミセロ ミセー ミセニ

ヨリ同国大使ニ訓令シタル件

貴電第四四四号ニ関シ八月九日「カザコフ」カ丸毛参事官 方交渉スヘキ旨訓令シタルモノナリト言フ 容、今回ノ条件、前回ニ比シ不利ナルニ付更ニ条件ノ緩和 務省ハ昨日在日本露国大使へ電訓ヲ発シタル由ニテ其ノ内 ニ語ル所ニ依レハ露国大蔵大臣帰著シタルニ付協議ノ上外 第六四六号 (八月十一日接受)

ヨセロ 八月十二日 石井外務大臣宛(電報)在露国本野大使ヨリ

露国ノ募債条件ニ多少譲歩ノ上速ニ妥結方意

見上申ノ件

希望スルニ於テハ露国ノ募債条件ニ付多少ノ譲歩ヲナシ成 到着シ始メタルヲ以テ日本ニ依頼スルノ観念稍薄ラギ来ル シ大ニ好感情ヲ有シ居タル処近頃英米等ヨリノ注文品続々 往電第六四六号ニ関シ露国政府ハ従来日本ヘノ注文品ニ対 第六六一号 N カ如キ観アリ就テハ日本側ニ於テ尚此上相当ノ注文引受ヲ ベク速ニ之ヲ纏ムル 1 必要アリト信ズ右御参考迄 (八月十四日接受)

> ミセー 八月十二日 石井外務大臣宛(電報)在露国本野大使ヨリ

四四二

英国ノ露国ニ対スル磅融通振ニ関シ伊国大使

第六六四号 内話ノ件

尤モ右条件トシテ露国ヨリ正貨四千万磅ヲ英国へ送附スヘ 二千万磅迄ハ融通スルコトトナシタル由ナリ(但二回払) キコトヲ要求シ居ルモ此点ハ目下露国政府ニテ詮議中ナリ 承諾シ直ニ貸渡スコトトシ尚将来ニ付テハ(不明)ニー億 国ノ外国ニ於ケル注文過大ナリシ為メ不足ヲ生シタルニ依 国ハ従来露国ニ対シ毎月二千五百万磅宛補給シ来レル処露 八月十一日在露国伊国大使ノ本使ニ内話セル処ニ依レハ英 ŀ リ其補充トシテ過去ニ溯リ毎月五百万磅宛増加スルコトヲ ノコトナリ

ミセニ 八月二十一日 幣原外務次官宛在本邦露国大使館参事官ヨリ

関シ漏洩防止ノ措置要望ノ件 やまと新聞所載団匪賠償費振替説ナル記事ニ

附属書 八月二十一日付朝刊やまと新聞切抜「団匪賠償

Confidential and private. 費振替説」

Tokyo, the 21st of August 1916.

does and important question.some quite inadmissible indiscretion in a very secret publicity and it could have happened only through the fact remains that the matter has been brought to which the statement has been made in the "Yamato" has been under discussion, and although the form in has been promised us at the time when this question the Russian share of the boxer indemnity to Japan. this day containing a statement about the cession of Dear Mr. Shidehara, You will kindly remember that the strictest secrecy I beg to enclose a cutting from the "Yamato" of not necessitate an official denial nevertheless

safeguarded from these indiscretionsseems that strictly confidential negotiations should be by far the first occurrence of such cases though it similar really something has to be done in order knowledge but I hope you will share I regret that I have to bring this fact to your indiscretions in future the more so that it my view that to avoid IJ.

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 ヨセニ

> 千九百四十年迄ヲ期限トシ塩税ヲ担保トシ尚一億六千万円 出シ既ニ我当局ニ対シ交渉シ来レリトノ説アリ該賠償金ハ

四四三

スル傾キアルヲ以テ露国政府ニテハ支那政府ヨリ受取ルベ 望ニ在ルモ我民間引受者ハ之ヲ肯ゼズシテ現金支払ヲ強望 満限トナルベキモノ多数アリ而モ露国政府ノ意嚮ハ書換希

キ団匪事件ノ賠償金ヲ以テ之ガ支払ニ振替フル新計画ヲ案

questioninform me what you have found possible to do in the I would be very much obliged to you if you could Yours sincerely,

(Signed) Shekine

His Excellency Shidehara

Mr.

Affairs.-

Vice-Minister of Foreign

(附属書)

大正五年八月二十一日附朝刊やまと新聞記事切抜

団匪賠償費振替説 軍需代金決済法

朱附短期(一ケ年以内)手形ヲ以テセルニ該手形ノ内近々 円ニシテ之ガ支払方法ハ民間引受者ニ対シテハ平均利率七 露国政府ヨリ我国ニ対シ既決軍需品ノ注文総額ハ約八千万

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三七三 三七四

額八千万円ハ将来ニ於ケル軍需品注文代金ノ担保ニ供セン アルヲ以テ此内ヨリ期限満限ニ至ルベキ手形金ヲ支払ヒ残 ナランカトイフ スル者ノ如ク是レ或ハ露国蔵券発行ノ遅延セル最大原因

三七三 八月二十五日 在本邦露国大使館参事官宛幣原外務次官ヨリ

やまと新聞記事ニ関シ回答ノ件

Confidential.

Department of Foreign Affairs, Tokio. August 25th, 1916.

of the 21st instant, and beg to assure you that in the "Yamato Shimbun" referred to in your note matter is receiving our most attention. Dear Mr. Shekine, I deeply regret the appearance of the statement the

(Signed) K. Shidehara Yours sincerely,

三七四 九月四日 武富大蔵大臣宛リ

露国大蔵省証券ノ本邦発行ニ関スル契約並証

ayant abouti à une entente, j'ai l'honneur d'informer pouvoir nécessaire pour signer le contrat concernant Russe ainsi que les bons en question.l'escompte de 70 millions de Yen de bons de Trésor Votre Excellence que j'ai reçu par télégraphe le plein naises, au sujet d'un emprunt russe à court terme Mr. Inouye, représentant du syndicat des banques japo-Les négociations entre l'Ambassade de Russie et

considération.-Monsieur le Ministre, les assurances d'usage, je saisis cette occasion pour Vous renouveler, En Vous communiquant ce qui précède aux fins de ma haute

(Signed) Kroupensky

Son Excellence

Monsieur le Vicomte Ishii

Ministre des Affaires Etrangères.-

テ 九月四日成立ノ横浜正金銀行及露国政府間七千万円大蔵省証券 記

発行ニ関スル契約写

COPY

tember 1916, Between the Russian Government (here-AN AGREEMENT made this Fourth day of Sep-

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三七四

> 券ニ署名ノ権限ヲ付与セラレタル旨在本邦露 四四四

国大使ヨリ通告ノ件

附属書 附 九月四日付在本邦露国大使ヨリ石井外務大臣 宛書翰第八〇五号写

記 九月四日成立ノ横浜正金銀行及露国政府間七 千万円大蔵省証券発行ニ関スル契約写

政機密送第一一一号

別紙写ノ通リ同大使ヨリ通報有之候ニ付右及移牒候也 テ右ニ関スル契約並証券ニ署名スルノ権限ヲ授ケラレ候旨 館ト日本銀行団代表者井上正金銀行頭取トノ間ニ交渉纏マ 露国大蔵省証券七千万円発行方ノ件ニ関シ在本邦露国大使 リ候趣ヲ以テ在本邦露国大使ハ今般本国政府ヨリ電報ヲ以

(附属書) 九月四日付露国大使ヨリ石井外務大臣宛書翰第八〇五号写

Tokio, le 22 Août 1916 4 Septembre

No. 805. de Russie Impériale Ambassade Monsieur le Ministre

inafter referred to as the Government) represented Japanese Syndicate consisting of the Banks whose one part, and The Yokohama Specie Bank, Limited by His Russian Majesty's Ambassador at Tokyo, of the of Yen 70,000,000. (Seventy million yen) with the obby the Government of Treasury Bills to the amount names are set forth in the Schedule hereunder writby it is agreed as follows:ject of utilizing the proceeds thereof in Japan, whereten, of the other part, concerning the proposed issue (hereinafter referred to as the Bank) representing a

at par on the 25th of September 1917 at the Office in denominations of Yen 10,000., Yen 5,000., and yen or before the 15th of November 1916 Treasury i, S of the Yokohama Specie Bank, Limited, Tokyo. 1,000. to the total face value of Yen 70,000,000 thereof. the price of and to underwrite the above-mentioned Bills at (Seventy million Yen) such Bills to be repayable Bills to Bearer dated the 25th of September 1916 The Government will deliver to the Bank on The Bank undertakes to issue to the public 94 per centum on the face value

タレハ照合ノ必要ナカルヘシトテ辞シ去リタルニツキ猶 四四七

手ニセル文書トヲ照合セントシタルニ露国大使ハ詳細筆記 往電第四三〇号ノ趣旨ハ当時時日逼迫文書往復ヲ許サザル シ ハ露文ニテ之ヲ筆記セルニ依リ念ノ為メ其筆記ト本大臣ノ ヨリ本大臣ハ大蔵大臣ノ来信ヲロ頭ヲ以テ反訳シ露国大使

発行上リ高ハ是迄ノ注文支払ニ宛ツル為ニシテ新規注文ニ 蔵省証券ノ発行ニ便宜ヲ与ヘ露国政府ヲシテ新規注文ヲ為 政府ノ希望ヲ諒トシ一面我工業界ヲ救済センカ為メ露国大 非常窮境ニ陥リ延テ彼等ニ融通シタル銀行ニ影響ヲ及ボシ 早手回シニ支那濠洲等ヨリ原料ヲ仕入レタル本邦当業者ハ 躇セルヲ以テ斯テハ一日モ早ク露国ニ製品ヲ納メ得ル為メ 露国委員ハ軍靴等注文ノ意思ヲ表明シ愈契約ノ段ニ至リ躊 新規注文支払ニ充当スルコトヲ掲ケタルハ下ノ事情ニ因ル 往電第四三〇号ニ関シ条件第二トシテ露国公債ノ上リ高 第五三三号 関シテハ本国政府ヨリ訓令ナシト言ヘリ 行後新規注文ナキ為メ取調タルニ案外ニモ露国大使ハ今回 スヲ得セシメントシタル次第ナリ然ルニ七千万円ノ証券発 一種ノ恐惶ヲモ惹起スルノ虞アリシカ為メ政府ハ一面露国

, Osaka.

The Sanjushi Ginko, Limited Osaka The The Kajima Ginko Goshi Kwaisha, Osaka. The Omi Ginko, Limited, Osaka. Yamaguchi Ginko, Osaka. Naniwa Ginko, Limited, Konoike Bank Gomei Kwaisha, Osaka Sumitomo Bank, Limited, Osaka Bank of Chosen, Seoul. Industrial Bank of Japan, Limited, Tokyo One Hundredth Bank, Limited, Tokyo. Yokohama Specie Bank, Limited, Yokohama. Bank of Taiwan, Limited, Taipeh Dai San Ginko, Limited, Tokyo Yasuda Ginko, Limited, Tokyo. Jugo Ginko, Limited, Tokyo

ω deduct that commission from the proceeds of the and the Stamp Duty thereon. expenses including the cost of printing the Bills Bills and to defray out of the said commission all of the Bills as commission and the Bank is to (one and a half per centum) on the face amount The Government will pay to the Bank $1^{1}/_{2}\%$

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三七四

say Yen 64,750,000. (Sixty four million seven hun-2% p.a. (two per centum per annum), with the dred & fifty thousand Yen) which sum will be the 28th of September 1916 for the net proceeds Ministère des Finances) in Petrograd. Chancery for credit operations of the Ministry of Government and at the disposal of the Special Bank in the name of "Tresor" for account of the kept on deposit at ten days' notice, Interest @ Finance (Chancellerie particulière de Crédit du The Bank will account to the Government on

kyo in cash one day before they mature. repayment of the above Bills to the Bank in To-The Government will hand the funds for the

<u></u> The Government will pay to the Bank at the

Tokyo.

quarter of one per mill) on the face value of five hundred Yen) as commission @ 1/4 % (one time when the funds for the repayment are paid the Bills. to the Bank Yen 17,500 (Seventeen thousand and

this Syndicate. after the 4th of September 1916, except through to the proposed nese Market any credit instrument of similar form .7 The Government will not place in the Japaissue during the three months

porate seals respectively the day and year first above each of them set their hands and the official and cordrawn up in triplicate and the parties hereto have to Government and one copy by the Bank. written, of which two copies are retained In Witness Whereof this Agreement has been by the

The Yokohama Specie Bank, Limited

President.

The Schedule above referred 5

The Dai-Ichi Ginko, Limited, , Tokyo.

The Mitsubishi Goshi-Kwaisha Banking Department, The Mitsui Bank, Limited, Tokyo.

四四六

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三七五

談方訓令ノ件

露国公債ハ新規注文ノ仕払ニ充当スベシトス ル当初ノ我条件ニ関シ行違アルニ付先方ト懇

三七五

九月十八日

在露国本野大使宛(電報)石井外務大臣ヨリ

二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三七七	大正五年九月二十五日露国大使館参事官「シェキン」氏来	会見録	在本邦露国大使館参事官 Shekine 氏幣原外務次官 弐百	第二十五日的名字書の「「一一」」の「一一」の「一一」の「一一」の「一一」の「一一」の「一一」の「		品新注文ト其代金仕払ノ資金調達問	三七七 九月二十五日 在本邦露国大使館参事官会談 スル		<i>シ</i>	以上ノ事情ヲ露国当局者ニ打明ケ此際	モ日本ノ経済事情ノ許ス限リ助力ヲ吝マザルヘシ 手取	能ナレト		注文ヲ為サザルモ仕払資金ハ不足ナリ其不足分ハ其仕	弋金ニ充ツルトスルモ其半領ヲ仕払ヒ得ルニ過キス	ルモノニ相違ナシ仮リニ今回ノ七千万円ヲ既定注	四千万円ナリ是レハ露国ニ於テ初メヨリ一定ノ胸算アリテ 🍐 交シ本	露国ノ既定注文品ニシテ今後日本ニ仕払フヘキ代金約一億 省露国
四四九	ナル此残高ハ即チ新規注文ノ資金ニ振向ケラレ得ルモ	資金千五百余万円ヲ控除セハ差引残高ハ約五千七百万円	弐百万円トナリ此内ヨリ前記来年七月一日迄ノ支払不足	ムニ之カ手取金ハ前回ノ割合ヲ以テ計算スルニ七	リニ新大蔵省証券	シテ実行シ得ヘキコトニ非ズ諸セスシラ菊抜注文妻系ラ新ねフルス如キン園匡政府ト	ベノー「見三に見つ」を告くしてい、客国なチノ外ナシ既定契約ニ依リ生シタル債務償却ノ方法	局更ニ相当額ノ露国大蔵省証券ヲ日本市場ニ於テ発行	此不足額ヲ完済シ且新規注文契約ヲ締結セムトスルニハ	ル勘定ナリ	手取金ヲ以テ之ニ充ツルトキハ猶ホ千五百二十五万円不	2金総額約八千万円アリ従テ右大蔵省証券発	九一七年)七月一日マデニ本邦へ支払ノ義務ヲ有スル既	七五〇、〇〇〇円トナル然ルニ露国政府ニ於テ来年(一	過日発行ノ七千万円露国大蔵省証券ハ実祭ノ手取金六四、	テ露国側ノ内情ヲ詳述シタル上次ノ通リ談話セリ	交シ本件ニ付日露両国当局者間ニ誤解アリタルハ遺憾ナリ	省露国軍需品新注文問題ニ関スル別紙覚書ヲ幣原次官ニ手

本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 ヨセセ

)

ナリ

印シ得へキ程度ニ達シ居ルモノハ軍靴、 露国ニ於テハ未タ決定ニ至ラズ 鉄線ニ付テハ約二ケ月前既ニ交渉中絶シタル筈又軍絨 今日迄交渉繋属セ ル新規注文品ニシテ其ノ契約ノ殆ド 軍鞍及火薬ナリ . 調 ハ

指定シ置クヲ必要ト思考ス ヲ得バ予メ其ノ費途ヲ明ニシ新規注文品ノ種類数量ヲモ 若シ今回新大蔵省証券発行ノ件主義ニ於テ日本側ノ同意

ヤト問ヒタル処「シエキン」氏ハ左ノ旨ヲ答ヘタリ

陸軍省ニ於テ右支払猶予ヲ承諾スルトモ露国政府ニ

取リ

テハ其ノ猶予期間ノ満了ニ至ラバ債務ヲ完済スルコトヲ

資金ハ日本ニ於テ調達スルノ外ナキヲ以テ結局此際日本 得ベキ方法ヲ今ヨリ計画シ置カザルヘカラズ而シテ之カ

銀行団体ヨリ右支払猶予期間満了ト共ニ其ノ支払ニ要ス

資金ヲ供給セラルヘキコトノ保障ヲ得ルノ必要アリ若

バ仮リニ陸軍省ニ於テ右支払猶予ヲ承諾スルモノトセハ此 払ハルヘキモノト記憶スト答ヘタルニ付幣原次官ヨリ然ラ 幣原次官ノ質問ニ対シ右八千万円ハ大部分日本陸軍省ニ支 リ別ニ資金調達ノ方法講ゼラレアリト説明セリ次ニ同氏

ゝ

四五〇

際該金額ニ相当スル新規注文ヲ直ニ締結スルコトヲ得ベキ

内ノ議ヲ纒メ他ノ一方ニ於テ井上正金銀行頭取ヨリ日本 従来「モレル」大佐ノ陸軍省当局者ニ対スル談話 爾後自分ニ於テ直接露都トノ電報往復ニ依リ露国政府部 ズモ今回誤解ノ因ヲ成シタルモノノ如ク察セラル トシ不取敢自分ハ速ニ井上氏ト意見ノ交換ヲ開始セ 大蔵省指揮ノ下ニ銀行業者及製造業者ノ議ヲ纒ムルコト N 5 パニ付 図ラ ムコ

N

額約八千万円ノ点ニ関シ幣原次官ハ自分カ大蔵省ヨ 右「シェキン」参事官談話中ニ言及セル既定注文品代金総 述ヘタルニ「シエキン」氏ハ約八千万円以外ノ分ハ当初 タ ル所ニテハ右代金総額壱億四千万円ニ上ルモノノ如シト リ聞キ Ξ

N

定注文品代金ノ支払ニ充ツルコト当然ノ順序ト思考ス要 文ヲ締結スルコトトシ過般発行ノ大蔵省証券手取金ハ既 キ保障ヲ与ヘラルルニ於テハ寧ロ之ヲ引当トシテ新規注 シ日本銀行団体ヨリ一定ノ期日ニ一定ノ資金ヲ供給スヘ

責メラルルカ然ラザレハ新規注文希望者ニ失望ヲ与ヘタ スルニ露国大使館ニ在テハ現存契約ニ基ク支払ノ遅延ヲ

コトヲ責メラルルカ両者孰レカ一方ノ攻撃ヲ受クヘキ

ト

ヲ希望ス

新規注文ヲ見合セ新大蔵省証券発行ノ商議成立ヲ待タム 務履行ヲ怠ルガ如キハ堪ヘ難キ失態ナルカ故ニ寧ロ暫ク Ц ኑ ヲ覚悟セザル ヘカラズ露国政府ト シテハ契約上ノ義

トス

(附属書)

露国軍需品ノ新注文ト其代金仕払ノ資金問題ニ関スル件 九月二十五日附在本邦露国大使館ヨリ日本外務省宛覚書

Although the amount of outstanding payments on

Confidential

would be fully ascertained and adjusted

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三七八

further corresponding loans in

Japanese

currency

Embassy, as well as to your letter of August 25th, I been made to you by the Councilor of the Russian

四五一

With reference to the communications which have

in Japan only when the amount and conditions of these circumstances new contracts could be concluded ments deriving from the said arrangements.

Under

No. 916

Dear Mr. Shidehara,

plies without being certain to meet in cash the payenter in commercial arrangements for military supbankers syndicate which produced 64,750,000 yen net. of the September loan, arranged with the Japanese to cover these liabilities do not exceed the proceeds thorities in Japan aggregates 80,000,000 Yen the assets contracts recently concluded by Russian military au-

It is obvious that the Russian Government cannot

Confidential.

Tokyo,

the 2nd of October 1961.

附属書

十月二日附東京日々新聞記事切抜

Tokyo, September 25th, 1916.

ter.

the bankers syndicate on the above mentioned mat-Embassy has been instructed accordingly to approach the concerned Japanese manufacturers, the Russian be concluded as soon as possible in the

interests of

Japanese Government that some new contracts should

Taking in consideration the wish expressed by the

(欄外註記) 「大正五年九月二十五日露国大使館参事官 Shékine

氏幣原次官

ニ手交ノ上談話(会見録調成済)」

三七八

十月二日

幣原外務次官宛

東京日々新聞ノ記事ニ関シ注意喚起ノ件

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三七九

contents morning and to draw your special attention to its beg to enclose ല cutting of the Nichi-nichi of this

券七千万円を以て新規註文に応ぜんことを希望しつゝある

四五二

更に本邦に於て蔵券(第三回)の発行を引受けんことを希 も露国側に於ては此際正貨を国外に流出せしむるを好まず

sy and the Foreign Office. references to secret negotiations between the Embasto stop and prevent the appearance May I again request your intervention in order in the press of

sincerely. Awaiting your reply on this matter I remain yours

> 可らざる必要あり且民間より購入したる軍需品以外我政府 平和の曙光を見るに至らず軍需品は更に其充実を図らざる 迄は新規註文を見合せつつある現状なるも戦局の前途今尚 望し双方の意向に間隔あり露国側に於ては之が解決を見る

より供給したる軍器代金亦之を決済せざる可らざるを以て

(Signed) B. Kroupensky

H. E. Mr. Shidehara

Vice-Minister of Foreign Affairs

万留) を本邦に譲渡したき旨交渉し来れるが我財務当局億四千) を本邦に譲渡したき旨交渉し来れるが我財務当局 露国は先般来我政府に対し支那より受領す可き北清事件賠

に於て右割引及留換算の点に就き異議あり爾来彼我の間に

不日之が解決を見るに至る可しと云ふ

接衝中なりしも最近に至り双方の主張略接近したるを以て

(附属書)

十月二日附東京日々新聞記事切抜

東京日日新聞 大正五年十月二日

軍需品決済条件

露国より北清事件賠償費を譲渡すこととして近 く解決せん

三七九

十月三日

幣原外務次官宛在本邦露国大使館ョ

読売新聞ノ記事ニ関シ申越ノ件

万円の決済に就ては日本側に於ては正貨を以て之を受領し 従来露国に対し本邦より供給したる軍需品未済代金約五千 且襲に本邦に於て其発行を引受けたる第二回露国大蔵省証

The

Russian Ambassador presents

his compli-

附属書

読売新聞記事切抜

Foreign Affairs of Japan and the Imperial Russian dential exchange of views between the Ministry for question which formed the subject of strictly confian article in which mention is again made to the yesterday, a cutting from the "Yomiuri" containing forward herewith, in complement to his letter ments to His Excellency Mr. Shidehara and begs to of

Tokyo, the 3rd of October, 1916. - No. 918. Embassy.

5

向ふに廻して他国の債権まで引受けるのはどんなものだろ

に角日本に対して今後大きな債務国にならんとする支那を

年賦金で支那留学生を教育してゐる米国等には面顔向けも

ならぬ次第なので交渉は極々秘密の裡に進行されたものだ

▲従つて其内容に就いても玆に明記しないことにするが兎

His Excellency

三八〇

十月六日

石井外務大臣宛(電報)在露国本野大使ヨリ

露国大蔵省証券使途ニ関シ露国大蔵大臣トノ

懇談ニ付報告並意見上申ノ件

Mr.

Shidehara

Vice-Minister of Foreign Affairs

(附属書)

読売新聞記事切抜

第八一三号

隣の噂 読売新

露国から我国に対して同国北清事変の賠償年賦金

需品の代金にするといふは一国の体面にも関することとて 金に窮したとはいへ他国から受ける予定の年賦金を以て軍

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三八〇

爾来英米仏ノ三国ヘノ注文品支払ノ為ニハ資金ヲ融通スル

四五三

ノ為曩ニ融通方ヲ承諾シタル壱千弐百万磅ヲ以テ打止トシ

モ英国政府ハ自国財政上ノ関係ヨリ露国軍需品代価支払

前既に決定した事実で目新らしい問題でない▲然しいくら

N

セラレタルヲ賞讃シ今後モ成ルベク日本へ注文シタキ考ナ 処大蔵大臣、之レ迄ノ日本へノ注文ガ常ニ正確迅速ニ実行 大臣ニ交渉スルト同時ニ大蔵大臣ニ面会シ懇談ヲ遂ゲタル 貴電五三三号ニ関シ貴電第五三四号ノ趣ヲ覚書ニ認メ外務

いたいその交渉があつたと報ずるものがあるが是れは数月 一億五千万留を我国に譲渡して軍需品未済代金に代へて貰

四五五

本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 ミハニ ミハミ

> 附与セラレタル旨通知ノ件 附属書 十月九日附在本邦露国大使ヨリ石井外務大臣宛

十万円借替ノ取極締結ノ権限ヲ同国政府ヨリ 在本邦露国大使ヨリ同国大蔵省証券千五百五

ミハミ 十月十日 勝田大蔵次官宛

別紙甲乙丙各号写並新聞切抜前揭ニ付省略

本邦露国大使館「シエキン」参事官ヨリ照会ノ次第ハ当時 先般やまと新聞所載ノ団匪賠償費振替説ナル記事ニ関シ在 次第ニ付委細右ニテ御承知相成度為念此段及御通報候也 テ不取敢同大使へ、別紙丙号写ノ通一応ノ回答送付致置候 乙両号写ノ通東京日々新聞並読売新聞切抜相添照会有之依 直ニ貴官宛及移牒候処今般在本邦同国大使ヨリ更ニ別紙甲 註

政機密送第一四一号

件

露国軍需品代金決済ノ為団匪賠償金振替ニ関 スル新聞記事ニ付在本邦同国大使ヨリ申越ノ

三八二 十月七日 菅原大蔵次官宛リ the Yamato Shimbun two weeks ago, exhaustive in-I beg to acknowledge receipt of Your Excellency's Since a similar report appeared in

and this Ministry. confidential discussion between the Russian Embassy Shimbun on the question which formed a subject of sues of the Nichi-nichi Shimbun and the Yomiuri ing our attention to the statements in the recent iscommunications of the 2nd and the 3rd instant, call-

止ムルノ外ナシト言ヒ十月四日為念右ノ趣書面ヲ以テ申越 ノ需要ニ限リ且ツ日本ニ於テ実現セラルベキ公債ノ程度ニ My dear Ambassador,

シタリ

Oct. 6th 1916

券七千万円、新規注文ニ充ツルトノ条件ノ下ニ之ヲ発行シ 促シ置キタリ卑見ニ依レハ今日ニ於テ最近ノ露国大蔵省証 垂示ノ趣ヲ通告シ貴地ニ於ケル交渉ヲ早ク纒ムル措置方督 尚貴電第四三〇号接到当時当方ニ於テハ露国当局ニ対シ御 証ナキ限リ此点ニ付互ニ論争スルモ毫モ実益ナキ義ト信ゼ (リト主張スルモ露国側ニ於テ右条件ヲ承諾シタリト ノ明

タ

kind. immense difficulty with which we are practically conserious and steps have been taken to remind them of the that they should have appeared in the newspapers, much public attention. and there is no indication that they have attracted réchauffé of the old story, amplified by imagination, ly objectionable as they are, evidently seem to be a in question in the Nichi-nichi and the Yomiuri, highany fresh disclosure of the secrecy. of such ill-advised reports. more especially in checking in advance the circulation fronted in exercising effective control over the press time, all possible measures have been taken to prevent of such source has yet been discovered. In the meanthe leakage but up to the present moment, no clue quiries have been made to trace out the source of I trust however that you will appreciate the indiscretion in publishing a report In any case, I deeply regret The statements of this

Belive me

My Dear Ambassador

Yours sincerely

(Signed) K. Shidehara

四五四

多大ノ注文ヲ為スベキ意気込ニ付此点ニ関シ篤ト帝国政府 ラル露国ニ於テハ資金ノ融通付カバ懸案ノ注文ハ勿論更ニ 本金融市場ノ情況之ヲ許ス間敷モセメテ其幾分カヲ何回カ ニ分チテ之ヲ供給シ新規注文ヲ受クルコト得策ナリト思考 ノ御考慮ヲ煩度シ露国政府希望ノ通ノ巨額ノ資金供給ハ日

Д

モ日本其他ノ国ヘノ注文ニ対シテハ資金ノ融通ヲ絶対ニ拒

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件

三八一

|為今後日本へノ注文ハ支払方法ヲ見出シ得ルヤ否ニテ決

ス

ミハー 十月六日 在本邦露国大使宛幣原外務次官ヨリ

日本ノ諸新聞ノ記事ニ関スル露国大使ヨリノ

申出ニ対シ回答ノ件

ヲ供給スルコト能ハザル場合ニハ露国政府ハ其注文ヲ緊急 ザルモ毎月平均二千五百万ヲ要スル見積ナリ日本市場ガ之 ニ達スベシ露国政府ハ右金額ヲ一時ニ必要トスルモノニ非 億円ニ上リ之ニ前記未済額及雑費ヲ合算スルトキハ四億円 ニ注文セムトスル貨物(金属及砲兵材料ヲ急グ)ノ高ハ三 ギズ即猶四千万円ノ支払未済額アリ而シテ露国ガ今後日本 大蔵省証券ハ之レ迄ノ注文品代価ノ一部ヲ支払ヒ得ルニ過 セラルベシト前提シタル後先頃日本ニ於テ発行シタル露国

____ 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三八四

来翰第九四五号

政機密送第一四三号

通来示有之候ニ付委曲右ニ就キ御承知相成度此段及移牒候 本件ニ関シ在本邦露国大使ヨリ本月九日附ヲ以テ別紙写ノ

(附属書)

露国大蔵省証券借替ノ取極締結権受権ニ付通知ノ件 十月九日附在本邦露国大使ヨリ石井外務大臣宛来翰第九四五号

Ambassade

Impériale

de Russie

Tokio, le 26 Septembre/9 Octobre 1916.

No. 945

Monsieur le Ministre

e clure avec la Banque du Japon un arrangement pour suis autorisé par le Gouvernement Impérial de conmillions de Yen. d'avril de l'année courante pour la somme de Banque des bons de Trésor Russes renouvellement aux J'ai l'honneur d'informer Votre Excellence que je conditions stipulées avec émis au mois $15^{1}/_{2}$ la

they effect will be acceptable to the Russian Government: contracts of supplies in Japan. September loan for the payment under the existing Russian Government to apply the proceeds of the hope that an arrangement to the following At the same time,

dated September 18. 46,000,000 Yen, to which reference is made in the gunpowder and cloths, amounting approximately to in Japan forthwith new orders for boots and saddles, Memorandum ب The Russian Government to engage to place of the Ministry of Foreign Affairs

same terms as in the case of the September loan. undertake to assist in finding the necessary fund meet the payment for those orders, on about the The Japanese Government, on their part, ъ đ

> 発行ノ露国大蔵省証券七千万円ヲ既約注文品ノ仕払ニ充当 貴電第八一三号ニ関シ帝国政府ハ露国政府カ客月当地ニ

テ

第五八六号

令ノ件

国大使ニ申入置キタルニ付右解決ニ尽力方訓

露国軍需品新規注文ノ約定ニ同意方在本邦露

スルコトニ就キ異議ヲ述ベザルベシ之ニ対シ露国政府ヨリ

ハ目下懸案トナレル軍靴、軍鞍、火薬、軍絨等約四千六百

fund to meet the outstanding liabilities of the Russian Government under the existing contracts of supplies. 15,000,000 Yen, which represents the deficit in the best endeavours for obtaining in addition the sum of The Japanese Government will also use their

Ministry of Foreign Affairs

October 16, 1916.

カスルコトニ決シ十月十六日当方ヨリ右ノ趣旨ヲ露国大使 対スル仕払資金不足額千五百万円モ右同様併セテ調達方尽 テ帝国政府ニ於テ責任ヲ以テ斡旋スヘク右ノ外既注文品ニ 前回ノ七千万円ノ露国大蔵省証券ト略々同一発行条件ヲ以 テ右ニ同意実行スルニ於テハ之レカ資金ノ調達ニ関シテハ 万円ノ新規注文ヲ直ニ約定スルコトトシタク露国政府ニ於

四五七

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三八五

> cède à la connaissance des autorités compétentes je En Vous priant de vouloir bien porter ce qui pré-四五六

sieur le Ministre, les assurances de ma haute consiprofite de cette occasion pour Vous renouveler, Mon-

dération.

(Signé) B. Kroupensky

Son Excellence Monsieur le Ministre des Affaires Etrangères Vicomte Ishii

三八四 十月十六日 在本邦露国大使館宛日本外務省ヨリ

ヲ斡旋スルニ付新規約定ニ同意方申入ノ件 スルコトヲ諒承シ且新規注文ノ仕払資金調達 九月発行ノ露国公債ヲ既約注文ノ仕払ニ充当

question, to raise no objection to the plan of the interest of the friendly and practical solution of the Tokio, the Japanese Government have decided, in the Embassy and the Ministry of formed a subject of discussion between the Russian ment for With reference to the question of the arrange the Russian military supplies, which has Foreign Affairs at

(欄外註記)

ン」参事官ニ手交セラレタリ」 「大正五年十月十六日幣原次官ヨリ在本邦露国大使館「シエ キ

三八五 十月十七日

在露国本野大使宛(電報)寺内兼任外務大臣ヨリ

同参事官ニ於テモ委曲其ノ意ヲ諒シ取急キ本国政府ノ回訓 覚書ヲ手交ノ上本件至急解決ノ必要アル旨詳細説明致候処 示ノ次第有之候ニ付本月十六日在本邦露国大使館「シエキ 本件ニ関シ本月十四日附官房秘乙第二〇三八号ヲ以テ御来 政機密送第一四 果電報アリタン リ本件ハ成ルヘク速ニ決定ヲ必要トスル事情アルニ付貴官 五百万円並今回決定スヘキ新注文代金四千六百万円計六千 ヲ請フヘキ旨約シタル後右ハ既注文代金支払資金不足額千 ン」参事官 一百万円ノ金額ヲ手取額トシテ実収シ得ル様公債発行方斡 リモ右露国当局ニ開示セラレ急速解決方御尽力ノ上其結 三八六 リ電話ヲ以テ幣原当省次官ニ今回ノ露国大蔵省証券発行 ニ説明シ以上解決案ニ対スル露国政府ノ同意ヲ求メ置ケ 一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 露国軍需品新注文代金調達ノ為露国大蔵省証 券新発行ニ関スル件 附 十月十九 (露国大使旅行不在)ノ来省ヲ求メ別紙写ノ通 記 八号 十月十八日露国大蔵省証券新発行ニ関シ在本邦 露国大使ヨリ幣原外務次官へ電話ノ要領 日 勝田大蔵次官宛 三八六 注文相成可然旨申入置候ニ付右様御承知相成度尚本件ニ関 属シ居ルニ付一括シテ回答スルニハ手間取ルヘシト申述へ 同時ニ同参事官ハ今回ノ諸注文品ハ各方面ノ官庁ノ管掌ニ 実収スルノ意味ニテ単ニ額面ニ於テ六千一百万円ヲ募集ス 旋セラルル趣意ト解シ差支ナキヤト問ヒタルニ付別紙覚書 取運候様交渉方訓令相成候間右様御承知相成度此段併セテ シ在露本野大使ヘモ委曲電報ノ上露国政府ニ対シ本件至急 シ得ル運ニナリ居ル由ニ付不取敢此レ丈ニテモ此ノ際至急 タルニ付右ニ対シ本官ハ軍靴、 ルノ意味ニ非ズト了解セラレ差支ナシト返答致置候尚右ト ニ必要ナル資金調達方斡旋トアル趣旨ニ徴スレハ右金額 大正五年十月十八日在本邦露国大使「クルペンスキー 申進候也 註 大正五年十月十六日幣原次官ヨリ「シエキン」露国大使館 原外務次官へ電話ノ要領 「月十八日露国大蔵省証券新発行ニ関シ在本邦露国大使ヨリ幣 記 申出ノ件参考ノ為記録ス 露国大蔵省券新募集ニ付電話ヲ以テ露国大使 参事官へ手交ノ英文覚書ハ前掲ニ付省略ス 軍鞍、火薬、既ニ直ニ契約

Ξ IJ

亡氏

見ルニ至ルベキヲ以テ右契約締結ノ当時者タル日本陸軍省 般来陸軍側ニ於テ待チ構へ居タル軍需品注文契約ノ決定ヲ ナルガ一方ニ於テ右大蔵省証券発行ノ議確定ノ節ハ直ニ先 テ取纒メラルベキモノニシテ日本陸軍省並露国大使館武官 於テモ今回露国大蔵省証券ノ発行ガ全然外交機関ヲ経由シ ヲ同省ニ往訪シタル処同副官ハ同省側並ニ「モーレル」ニ ニ付右事情問合ノ為武者小路書記官ハ同日長尾陸軍省副官 右ハ如何ナル次第ナリヤ将来ハ必ズ同大使ト日本外務省ト 国大使館武官ニモ本件ニ関スル交渉ヲ為サレタル趣ナルガ 依ルコトト諒解シ居タル処日本陸軍省ヨリ「モーレル」露 談中ニテモ御承知ノ通全然同大使ト日本外務省トノ交渉ニ 協議ハ先般「シエキン」露大使館付参事官ト幣原次官ト会 為シ置カレ ハ ノ介入スベキ筋合ニアラザルコトハ充分ニ諒解シ居ル次第 ー」大使ハ右注意ヲ大蔵省証券募集交渉ト見做シ如斯キ申 Ξ 其ノ相手方タル「モーレル」大佐ニ契約締結ノ下準備ヲ 間ノ交渉ニ依リ本件ヲ取運ブコトトシ日本陸軍省対「モ レル」大佐ノ交渉ハ打チ切ラルル様致度旨申出アリタル 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 タキ旨予メ注意シ置キタルニ付 「クルペンスキ 三八七

> 副官ニ通シタル処同副官ハ委曲了承シタルニ付関係官ニ其 意方ヲ命ゼラレタルニ付同書記官ハ直ニ之レヲ長尾陸軍省 出ヲ外務省ニ為シ来レルモノナラント述ベタ ニ関シ「モーレル」大佐ニ交渉方見合セ置ク様陸軍省ニ注 リ兎モ角陸軍省ニ於テハ差当リ何等直接間接ヲ問ハズ本件 路書記官ハ帰来右ノ趣ヲ幣原次官ニ報告シタル処同次官ヨ ノ儀申入置クベキ旨答へタリ ルニ付武者小

三八七 英国政府ニ於テ露国軍需品仕払資金ノ融通ヲ 十月二十一日 在露国本野大使宛(電報)寺内兼任外務大臣ヨリ

第五九五号 日本ニ関シ拒絶セル事情取調方ノ件

御問合ノ上折返シ回電アリ度シ 貴電第八一三号上段「英国政府ハ」ヨリ「絶対ニ拒ム」マ 壱億二千万磅トアリ孰レカ正確ナリヤ又英国政府カ英米仏 テノ一節ニ関シ壱千二百万磅トアルハ貴電第六六四号ニハ タルニ付至急御取調相成若シ必要アラハ在英珍田 ハ拒絶スルニ至リタル事情承知シ度旨大蔵省ヨリ申出アリ ノ軍需品仕払資金ハ之レヲ融通スルモ日本其ノ他ニ対シテ 大使へモ

F

四五八

館

Э

四五九

三九一四六一	二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九〇 三
化一方: 一 イランシーン 一不伯	
吏ニ於テモ更利ナルベント存戻	特第一四八号
於ケル露国側ノ材料ニテ明瞭トナラバ在英国特命全権大	官ヨリ寺内兼任大蔵大臣宛電報転電ノ件
露国政府ガ使用シタル金額ハ幾何ナリヤ此二点先貴方ニ	融通ヲ英国が差止メタル問題ニ関スル森財務
指スモノニヤ又右電報中日本充当額一千二百万磅中既ニ	露国軍需品ノ日本注文分ニ対スル仕払資金ノ
側ノ所謂一億二千万磅ノ融通トハ何時ヨリ何時迄ノ分ヲ	ミア男子グオフ目多
ニ増加スル事ヲ覚悟スベシト明言シタル事実モ有之露国	三九一 十一月一日 存为康壬삮务大豆包(電報)
億磅ト予定シ且首相最近ノ演説ニ依レバ此費目ハ将来更	:
治領土ニ対スル貸付ハ開戦以来来年三月三十一日迄ニ八	
ナリトノ事ニ有之又英国政府ノ臨時事件費中同盟国及自	テ露国大蔵省証券ヲ発行スルコトニ央ン既ニ外務省へ珍棐「京富国ニアシューンコン」ノーンサイン、「東京アシューン・オ
ハ開戦以来英国ヨリ融通ヲ受ケテ使用シタル金額四億磅	日本政府ノ尽力ニ次順シテ新ニ日本ニ
ナレドモ小官ガ最近露国財務官ヨリ聞ク処ニ依レバ露国	六号ニ関シ十月二十九日大蔵大豆
タル融通総額一億二千万磅ト有之候処右ハ其期間不明瞭	将てヒつみ
一、然ル処先以テ右電報中一、二確メ置キ度点有之承諾シ	に加え
ニモ大使ヨリ御相談アリ	露国大蔵省ハ日本ニ於テ新ニ証券発行ニ夬定
協定ノ内情取調方大蔵大臣ヨリ大使へ御依頼ノ由ニテ小官	三九〇 十月三十日 - 一子の兼任外務大臣宛(電報) - 一日 - 一子の兼任外務大臣宛(電報)
代金支払ニ関スル英国政府ト露国政府トノ間ニ於ケル融通	一日時日本です。
ヲ以テ露国ノ	回電相成度シ
以下財務官ヨリ依頼電報ニ有之大蔵次官へ伝言有之度	情承知シ度旨大蔵省ヨリ依頼アリタルニ付至急御取調ノ上
寺内へ 森ヨリ	1
拒絶スルノ已ムヲ得ザル次第ナル趣ナルガ右ノ如ク日本へ	(欄外註記)
易ノ事ニアラザル折柄到底日本其ノ他ヘノ分ニ対シ融通ヲ	至レルカ為ナリト言フ
ツ第一ニ仕払ノ途ヲ講スルノ必要アルニ拘ラズ夫レスラ容	露国ノ注文ニ対シテハ仕払資金ノ融通ヲ拒ムノ已ムナキニ
理由、英米仏ヘノ注文、莫大ニシ	容易ノ業ニアラザルヲ以テ
分ニ対シテハ絶対ニ融通ヲ拒絶スルコトニ決シタル趣ニテ	ニアルヲ以テ先ツ第一ニ之カ仕払ノ途ヲ講スル必要アル処
融通ヲ為スヘシト雖モ日本其ノ他へ	米仏ニ対スル注文ハ莫大ニシテ軍事上最重要ナル関
仏=太スル同注文代金ノ支払=	文ノ軍需品仕払資金ヲ融通アルコトヲ拒絶アル理由ハ露国
スルコトトナリ居タル処今般英国政府ハ自国財政上	ヲ限
趄	加シ更ニ露国ノ請求ニ依ツ一千二百万磅送堆加シタルモノ
代金仕払ノ為同政府へ総額一億	いた百万磅融通方承認シ後之ヲ九百万磅ニ
在露本野大使屢次ノ来電ヲ綜合スルニ英国政府ハ露国政府	磅ハ全体ノ融通額ナリ日本ヘノ露国注文品仕払ニ充ツル為
	通方承諾シタル額ニシテ往電第六六四号ノ一億二千
訓令ノ件	国政府ニ
本ニ関シ拒絶セル事情ニ付英国ノ内情取調方	シ
英国政府ニ於テ露国軍需品仕払資金融通ヲ日	
右身巨珍日犬伯穷	日本ニ関シ拒絶セル事情ニ付回電ノ件
三八九十月二十八日時内兼任外務大臣ヨリ	英国政府ニ於テ露国軍需品仕払資金ノ融通ヲ
依頼アリ十月二十八日珍田大使へ電スミ」	三八八 十月二十四日 寺内兼任外務大臣宛(電報)
「本電ニ関ン大歳省富田書記官ヨリー心英国	
三八九 四六〇	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三八八 〓

四六三	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九三
後者ニ関シテハ日本ハ今猶全ク安全ナラザルガ如シ然レト	事別紙ノ通リ訳出御参考迄ニ及御送付候也
得ル旨ヲ洩セルガ大砲製造ニ就テハ何事モ語ラズ察スルニ	露国軍需品供給ニ関スル「フランクフールター」紙所載記
軍大臣ハ、日本ハ各工廠ニ於テ月々五万挺ノ小銃ヲ製造シ	機送第二八四号
軍隊ノ武装ヲ薄弱ナラシムル虞ナキヤト質問セルニ対シ陸	和訳文「日本ノ露国軍需品供給ト
当時多数ノ議員ハ此ノ如キ莫大ノ供給ヲ為ストキハ自国	附属書 八月五日「フランクフールター」紙所載記事ノ
ルカヲ知ルベシ	、電信電査では代系に同じし来国
述ベタル点ヨリ見テモ其供給ガ如何ニ莫大ナル数量ニ達セ	日本ノ猪国軍需品共合ニ與スレ新聞記事送寸
百円ニ上ル第二注文ヲ有	三九三 十一月十日 山田陸軍次官宛
シタルコト及尚現ニ被服、	
院ニ於テ陸軍大臣ガ其当時迄ニ既ニ六千五十九万四千七百	上本件取調方御依頼相成度
独リ最大ノ華客トナルニ至レリ一九一五年十二月十三日下	使へ電報セザルニ付貴官ヨリ本電ノ次第ヲ同大使へ説明ノ
英国ハ現物ノ引取ニ先立チ之ヲ露国ニ譲渡セルヲ以テ露国	使用済ナル可シト想像セラル、尚本件ニ付テハ別ニ珍田大
蘭西及白耳義ヨリノ注文ハ銃器千余挺ニ過ギザリシカドモ	払ヒタル額約一億四千万円ニ上レル所ヨリ見ルニ既ニ全部
聯合軍側ノ軍需品注文ハ日本ニ多大ノ事業ヲ与ヘタリ仏	磅ノ使用額不明ナルモ露国ガ今日迄倫敦為替ニテ日本ニ仕
フランクフールター紙	アラズシテ本年八月頃以降ノ分ナリ又日本充当額千二百万
八月五日	電報中ノ一億二千万磅ハ開戦当初ヨリノ英国ノ融通総額ニ
日本ノ露国軍需品供給ト日本ノ利益	等交渉ヲ開始スルノ意図ニアラズ尚外務省ヨリ珍田大使宛
(和訳文)	事情一応承知致度趣旨ナリ併シ其結果今直ニ英国政府ト何
(附属書)	至リタルノミナラズ将来モ絶対ニ融通セザルコトトナリシ
府フEオへ注マノケニヌフハ資金ノ福正ラジタ打殺フハニ	作も資金ノ扇证う差山ノ今川問題ニ限フル件
英 国	英国政府ガ露国軍需品ノ日本注文分ニ対スル
政府ノ融通資金ヲ引当トシテ倫敦為替決済ヲ条件トシタル	三九二 十一月六日 幣原外務次官宛
貴電特第一四八号落手大蔵省問合ノ目的ハ従来露国ガ英国	S
付事情取調方ノ件	申ヲナシタル事ト御承知相成度
注:	期待ニ添フ可キ正確ナル報道ヲ得セシムル為右ノ如ク上
寺内兼壬大歳大豆ヨリ在侖敦築材務官位電報及組之去、	アラバ之ガ聞込ノ注意ヲ怠ラザルハ勿論ナレドモ可成御
「附属書」	行
註 別紙甲号前揭:付省略	卑見申述候
外務次官 幣原喜重郎殿	在英国特命全権大使へ御通知アルヲ便宜ナルベシト存ジ
大蔵次官 勝田主計(印)	ナリヤ又取調ノ目的ハ何レニアリヤ重ネテ大蔵大臣ヨリ
大正五年十一月六日	ハ其結果トシテ本邦政府ハ何等カ英国政府ニ申込ム御考
リ発電取計置候間右御了承相成度此段及御回報候也	方法ニ苦シミ居候次第ニ有之候就テハ右協定ニ関シ若ク
財務官ヨリ別紙甲号ノ通リ電報接到候ニ対シ別紙乙号ノ通(註)	シモ正確ナルヲ得ズ従テ在英国特命全権大使小官共ニ其
金融通差止ノ内情取調方御依頼申置候件ニ関ツ倫敦駐劄森	ヲ得難カル可ク又間接ニ局外者ヨリ探知セントセバ必ズ
一三号中英国政府カ露国軍需品日本注文分ニ対スル仕払資	等カ交渉事項ヲ以テスル等或関係ヲ以テ臨マザレバ要領
客月二十日秘乙第二〇七〇号ヲ以テ本野駐露大使電報第八	者ヨリ之ヲ知ラントスレバ当方ニ於テモ之ニ関聯シテ何
官房秘乙第二一七三号(十一月七日接受)	付考慮中ナル所思フニ両国間ノ協定内情ニ関シ直接当局
附属書 寺内兼任大蔵大臣ヨリ森財務官宛電報	二、又同時ニ在英国特命全権大使並ニ小官共ニ取調方法ニ
四六二	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九二

四六五	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九四
募集方提議ノ件	スルノ件ハ新規注文ニ対ジ露国側ニ於テ資金融通相付カ
新規注文ノ仕払ニ充当ノ為露国公債総額二億円毎月二千万円ヲ十一月十一日附在本邦露国大使館ヨリ日本外務省宛覚書	二、元来今回露国大蔵省証券ヲ日本市場ニ於テ重ネテ発行
	ルモノニシテ大使館ニ於テ細目ヲ承知セザル旨相答へ候
示相成度此段及照会候也	反問シタルニ同参事官ハ右ハ露都ニ於ケル計算ニ依リタ
就テハ委細ハ猶ホ別紙ニテ御承知ノ上貴省御意見至急御回	談話ニ上ラザリシモノナル処右ハ如何ナル次第ナルヤト
バ 之ヲ本国政府ニ電報スヘシト答へ候	計算シアリ且露国証券借替ノ費用ノ如キハ固ヨリ当時ノ
ラルルニ於テハ明確ニ其旨至急回答ニ接シタシ、サスレ	トノ御話ナリシニ本書ニ拠レハ四千五十万円ヲ不足額ト
ルニ付帝国政府ニシテ到底本対案考量ノ余地ナシト認メ	ノ節来年七月一日迄ノ支払不足資金ハ千五百余万円ナリ
スルモ本国政府訓令ノ儘之ヲ帝国政府ニ申入ルル次第ナ	一、先般(本年九月二十五日)同参事官ト本件ニ関シ談話
ヲ調達スヘシト言フガ如キハ事実行ハレ難キコトト私考	大要左ノ通談話致候
シ殊ニ日本市場ノ状況ニ拘ラズ必ズ毎月二千万円ノ正金	テ本官ハ右露国政府ノ対案ニ対シ不満足ノ意ヲ表シタル上
ハ右ハ同	シタリトテ別紙ノ
顕諒解ニ反スル申出ニ接スルハ其ノ理由ヲ解スルコト能	本件ニ関シ在本邦露国大使館参事官「シエキン」氏本日来
於テ入手スル様致シタシトノコトナルガ今更斯ノ如キ前	政機密送第一六二号
之ヲ措キ別ニ二億円ノ募集ヲ為シ毎月二千万円宛露国ニ	ノ件
モ夙ニ承知ノ儀ナリ然ルニ右ノ計画ハ本書ニ拠レハ全ク	額二億円毎月二千万円ヲ日本ニ於テ募集方提議
迄ハ直ニ露国ヨリ新規注文ヲ発スベキ諒解アリシハ同官	宛覚書新規注文ノ仕払ニ充当ノ為露国
ル次第ニシテ日本ニ於テ資金ヲ調達スルコトヲ得ル程度	附属書(十一月十一日附在本邦露国大使館ヨリ日本外務)
ザルトノコトナルニ付之カ資金トシテ右募集ヲ計画シタ	議ノ件
省証券ヲ本邦ニ於テ発行ニ関スル交渉ニ付協	次ニ日本工業家ハ当然ノ希望トシテ兵器弾薬等日本軍隊
露国軍需品新注文ノ代金ニ充当ノ為同国大蔵	ヲ行ヒ居レルガ其必要ハ既ニ一再ナラズ証明セラレタリ
三九四 十一月十一日 勝田大蔵次官宛	ニ渉ル物品引取ニハ多数ノ露国将校日本ニ出張滞在シ検査
	運搬車類、薬莢、爆発薬等ヲ主ナルモノトシ其他頗ル多岐
得シナリ	目ハ軍服、靴及其他ノ皮革製品、鉄道、電信及電話材料、
多大ノ経費ヲ要スルコトナクシテ其兵器ヲ一新スルコトヲ	シムルガ如シ露国ハ民間工場ヘモ直接注文ヲナセリ供給品
実ヨリ言フモ日本ハ今回ノ戦争ニヨリ且其経験ニ基キ特ニ	官有工場ニナシタル注文ノ一部ハ更ニ民間工場ニ請負ハ
テ日本兵器ノ独立ニ一歩ヲ進マシメタルハ凝ナキ所ナリ事	ニ際シ露国ハ此義務ヲ甘受シタルガ如シ
シタルノミナラズ日本軍需工業ノ発展ヲ夥シク促進シ、以	ヲ要求シ露国ハ大ニ之ヲ難シトセシガ最近調印ノ契約締結
ルルニ至レリ要スルニ今次ノ戦争ハ啻ニ日本財政ヲ豊富ニ	尚露国ガ其一部ノ需要ヲ日本ニ仰グトノ保証ヲ与ヘンコト
作ヲ行ヒ最新式戦艦砲ノ砲弾モ室蘭及呉工廠ニテ製造セラ	永ク懸案トナリテ陸軍省モ交渉ニ立入リ結局日本ハ戦後モ
進歩ヲナシ東京ニ於テハ「プリズム」望遠鏡、飛行機ノ製	タリ多数ノ私設工場ヲ露国注文品工場ニ変改セントノ計画
画アリ又官営工	モ快速ニ供給セズ且注文ノ中ニハ多ク引受ケ難キモノアリ
之等ハ凡テ大阪工場ノ指揮ノ下ニ立ツ由ナリ朝鮮ニテモ平	為ニ活動シツツアルナリサレバ日本ハ露国ノ要求通り必シ
年百箇ヲ製出スベク更ニ広島ニ数ケ所ノ工場ヲ建設スベク	要スルニ日本工廠ハ啻ニ露国ノ為ノミナラズ日本自身ノ
拡張ヲ行ハントスルガ如シ又神戸ニ水雷製造所ヲ新設シ一	ニ付研究ヲ進メ居ルトノコトナリ
頗ル意ヲ注ギ未ダ実行ヲ見ザレトモ若松及室蘭ノ製鉄所ハ	ナリ精細ハ未ダ知リ得ザレトモ日本ハ既ニ大正四年式武器
メテ之ヲ避ケントシツツアリ之ニ反シ官営工場ノ発展ニハ	テ得タル経験ニ基キ新砲ヲ調製シ得シハ兎ニ角日本ノ利益
ノ需要ヲ大部分請負ヒ度キ希望ヲ有シ居ルガ日本政府ハ努	モ日本ガ多数ノ重砲ヲ非常ナル高価ニ売放チ而モ戦争ニ由
四六四	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九四

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九五

The Russian Embassy did not fail to transmit to Petrograd the contents of the communication on a new loan to be raised in Japan which has been received from the Foreign Office on October 16th.

It appears from the reply of the Russian Government which has now reached the Embassy that the amount of outstanding and uncovered payments in Japan aggregates $40^{1/_2}$ million Yen. Taking in consideration the new orders under discussion, some of which have been mentioned in the communication of October 16th, as well as the expenses connected with the renewal of the 50 million yen loan in February next, the total sum required for the Russian Government is far in excess of the 61 million yen net recently offered.

Therefore the Russian Government, desirous to avoid in future difficulties connected with the military supplies to be ordered from Japan, proposes instead of the offer communicated on October 16th to establish a scheme of credits which would be periodically obtained on the Japanese financial market for the total amount of 200 million yen net, 20 million net

> to be raised monthly beginning from the 1st of December next.

In order to avoid all misunderstandings the Russian Embassy wishes to add with regard to the contemplated order of cloths mentioned in the communication of October 16th that the negotiations on this point have been definitively dropped and that the Russian Military Attaché has been instructed to inform accordingly those interested.

Tokyo, October 29th/November 11th, 1916.

三九五 十一月十三日 幣原外務次官宛

大正五年十一月十三日(十一月十四日接受) (十一月十四日接受) 省証券本邦ニ於テ発行ニ付意見回示ノ件

幣原喜重即殿 大蔵次官 勝田主計(印)

邦市場ニ於テ発行ニ関スル交渉ノ件領承当省意見左ノ通ニ政機密送第一六二号露国軍需品新注文代金充当ノ為露券本外務次官 幣原喜重郎殿

有之候間可然御取計相成度候也

- 要ヲ認メズ 、「「露国提案中不足額四千五十万円トアルハ当方ノ計算ト」
- 望ス 二 露国提案ノ趣旨ハ之ヲ諒トスルモ政府ハ懸案トナレル
- 文ノ分ニ対スル仕払代金ノ調達ニ付テハ政府ハ責任ヲ以 マラレムコトヲ要望ス然ルトキハ前記不足額及此新規注 と居リ関係者ハ準備シ居ルニ付此分ハ至急新規注文ヲ発 シ居し関係者ハ準備シ居ルニ付此分ハ至急新規注文ヲ発 したビムヲ得ズトスルモ軍靴軍鞍及火薬ニ関シテハ露国 三 依テ懸案トナレル新規注文中軍絨ハ一時之ヲ見合ハス
- 信ス 前記ノ如ク至急懸案ヲ解決シ置クコトハ市場ノ疑惑ヲ

テ斡旋スヘシ

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九六ノ上徐ニ資本家側ニ協議スベク資本家側ニ於テ若シ此方五 露国提案ノ「クレヂット」ノ方法ノ如キ叙上懸案解決

間ニ於テ誠意ヲ以テ実行出来得ル方法ニ付協議スヘシ法ヲ以テ現下日本市場ニ於テ不能トスルトキハ日露両国

三九六 十一月十六日 在本邦露国大使館宛

債総額二億円ヲ日本ニ於テ発行方提議ニ対シ露国軍需品新規注文ノ代金ニ充当ノ為露国公

回答ノ件

His Imperial Majesty's Minister for Foreign Affairs presents his compliments to His Excellency the Russian Ambassador, and has the honour to enclose herewith a Memorandum in continuation of the subject of the proposed financial arrangement connected with the new orders for Russian military supplies. He further begs leave to request that His Excellency Mr. Kroupensky may be so good as to favour him with an early reply to the proposal contained in the accompanying Memorandum.

Ministry of Foreign Affairs, November 16, 1916.

November 16, 1 (別 紙)

覚

書

四六七

四六六

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九六

to offer the following observations in reply to that the new orders for military supplies, and they desire counter-proposal of the Russian Government for a ficareful examination the Memorandum of the Russian communication. nancial arrangement to be made in connection with Embassy under date of November 11, containing the The Japanese Government have submitted to their

may be left aside from the present discussion. cide with the figures obtained by the Ministry of by the Russian Government in Japan does not coinof outstanding and uncovered payments to be made Finance at Tokio, but such discrepancy in the figures Memorandum as representing the aggregate amount The sum of $40 \frac{1}{2}$ million yen mentioned in the

are well persuaded of the prime importance to bring to the discussion of a new and larger plan. tions of certain military supplies, before proceeding to a prompt and satisfactory issue the pending quesproposal now presented, the Japanese Government to them highly desirable in the interest of both na-While taking due note of the Russian counter-It seems

> extent, completed the necessary preparations. which the Japanese manufacturers have, an agreement has been practically reached, and for orders by the Russian Government, respecting which of the long suspense in the conclusion of the new nancial and industrial quarters in Japan on account givings which is actually gaining ground in the fitions to dispel as early as possible the sense of misto a large

÷ ing arrangements. the payments which remain uncovered under existthe payments in respect of those orders, as well as bility to assist in securing the necessary fund to meet Government would undertake on their own responsiupon such orders being placed forthwith, the Japanese made in their previous communications, and that, boots, saddles and gunpower, to which reference was should be placed without further delay at least for strained to hold to their proposal that the new orders Accordingly, the Japanese Government feel con-

impression in this country, and will largely facilitate the line proposed, 4 An early adjustment of the pending questions in will no doubt create favourable

ment in Japan. future financial operations for the Russian Govern-

sible for the Japanese Government to proceed at once operation may suggest. But it is apparently imposplan which their mutual sentiments of friendly co-Governments to consider in common a more feasible ditions of Japanese market, it remains for the two above indicated. settlement of the questions respecting the new orders left unsolved. pressing questions of the specified new orders are to the discussion of such a scheme, unacceptable to the capitalists under the existing conwill be ready to approach the capitalists, after the Russian counter-proposal, the Japanese Government As regards the scheme of credits embodied in the Should that scheme eventually prove so long as the

三九八

Ministry of Foreign Affairs

November 16, 1916.

十一月十七日 ŋ

三九七

勝田大蔵次官宛

露国軍需品新注文代金充当ノ為露国公債二億

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九七

三九八

四六九

確実ノコトヲ承知セズト答へ置ケリ又同日首相ノ午餐ニ於 縦ノ為メ日本ヨリ必要ノ人員ヲ派遣セラルルコトトナリ居 テ大統領ハ隣席ニアリタル本使ニ向ヒ談話中日本ノ重砲操 ヲ派遣シタルコトヲ記憶シ居ルモ其後ハ如何ニナリ居ルヤ ルヤトノ質問アリシニ付本使猶本邦勤務中現ニ右操縦人員 十一月十六日聯合国代表者等ノ為メニ催シタル晩餐会ニ於 第二〇一号 (十一月十八日接受)

ニ関シ質問アリタルニ付実情随時通報方稟請 仏国大統領等ヨリ日本ノ対露兵器弾薬供給等 ノ件

十一月十七日 寺内兼任外務大臣宛(電報)在仏国松井大使ヨリ

円ヲ本邦ニ於テ発行方露国側提議ニ対スル回

見御回示相成候ニ付別紙写ノ通昨日附ヲ以テ在本邦露国大(産)本件ニ関シ本月十三日附官房秘第三七三号ヲ以テ貴省御意

政機密送第一七一号

答通報ノ件

使宛覚書送附致置候条右様御了承相成度此段及通報候也

註 別紙覚書ハ前掲ニ付省略

四六八

IO I 四七一	一一 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇〇 四
•	露国政府ニ供給ノ兵器及人員ニ関シ回答ノ件
	四〇一 十一月二十五日 階原外務次官宛
	註 別紙松井在仏大使来電第二〇一号前掲ニ付省略ス
電第一五五号(四〇二文書)ニ	· ·
註 返電案省略、但シ該案ノ内容へ全部後揭在仏松井大使宛往	右目的ノ為公井大吏へ可電スヘキ本牛現伏ニ関
遣人員調及送付候也	支ナキ限リ同大使極内密ノ含迄ニ回示致置候方好都合ト被
スル返電案竝別ニ郵送スヘキ露国譲渡主要兵器概況表、派(計)	ノ通申越候ニ付直ニ同電報写及御回付置候処本件内情ハ差
本月十七日附第二〇一号電報問合ニ対シ別紙ノ通当省ニ関	本件ニ関シ在仏松井大使ヨリ本月十七日発電報ヲ以テ別紙(11)
法教習ノ為派遣シタル人員ニ関シ松井大使ヨリ外務大臣宛	政機密合送第一二九号
帝国政府ヨリ露西亜政府へ供給シタル兵器弾薬竝火砲操縦	方在仏松井大使ヨリ電報稟請ノ件
	露国ニ軍需品供給並人員派遣ニ関シ現情回報
	・ 』 フ目
大正五年十一月二十五日	四〇〇十一月二十四日、加豪安軍大臣各宛二二十四日、二里公孫大臣。
露西亜政府へ供給ノ兵器ニ関スル件回答	务大王
陸軍省送達欧発第一〇五六号(十一月二十七日接受)	内記セル由ナリ後参考送ニ申進ス
附 記 露国側軍需品補給ニ関スル本邦側ノ方針	、日、「即き方回:ヨ鱼、」
ニ 重砲山砲教習ノ為露国派遣人員調	ヨーミンヨケ夷ケ三へ主義ン量キャレュトアリン
附属書一 露国譲渡主要兵器概况表	テ「クレヂット」ヲ開クノ途ヲ講ズル方最モ得策トスヘク
協定シ露国ヨリ日本ニ正貨ヲ送リ之ヲ基礎トシテ日本ニ於	置キタルガ其ノ後総裁ハ休暇旅行ヨリ帰京十一月十五日別
国ノナシ得ル所ニアラズ従テ露国トシテハ此際寧ロ日本ト	ノコトニ付森ヨリ同官ノ名ヲ出サズ程好ク取調へ方依頼シ
ノ対日決済ノタメ英国カ金貨ヲ日本ニ現送スルガ如キハ英	ハ信ズル能ハズ希望トアラバ其ノ中実否確カメヤルヘシト
ヨリ金貨ヲ取リ寄スルノ必要アルノ地位ニ在ルヲ以テ露国	説トシテ本件ニ言及セシメタルニ総裁ハ右様ノ事実アリト
ルノ外ナカルベシ而カモ英国自身露国トノ協定ニ依リ露国	十一日同官ニ於テ同銀行総裁ト会談ノ機ヲ利用シ世間ノ風
英国ヨリ融通セムトナラバ英国ハ勢ヒ正貨ヲ日本へ現送ス	ヲシテ英蘭銀行側ニ就キ探知ヲ試ミシムルコトトシ十月二
ト」ノ総額ニシテ露国ハ既ニ之ヲ消費シ尽クセリ此ノ以上	貴電第三八〇号ニ関シテハ第一著ノ手段トシテ先ツ財務官
万磅ハ英国ガ日本ニ於テ所有シ又ハ獲得シタル「クレヂッ	第四二二号
シ内六百万磅ハ日本注文支払ニ充当セラレタルガ之ノ六百	仕払資金ノ融通差止問題ニ関シ取調回報ノ件
国ノ海外支払ノタメナシタル融通高ハ開戦以来四億磅ニ達	英国政府カ露国軍需品ノ日本注文分ニ対スル
尤モ之ヨリ先キ露国財務官ハ森ト会食ノ際(英国政府ガ露	三九九 十一月二十二日 寺内兼任外務大臣宛(電報)
ト思考ス	
リ右様ノ次第ニ付此ノ上本使ニ於テ取調ノ要モナカルヘシ	遣等援助ノ振合御開示アル様致シタシ
シ故英国政府モ其ノ儘ニナシ置キタルニ過ギズトノコトナ	極メテ我ノ為メ利益ニ付(不明)右供給ノ程度又ハ人員派
通ヲ請求シ米リタルモ日本注文ニ関シテハ何等申出ナカリ	ル必要ナキモ右ノ如キ場合ニ克ク我努力ヲ彼等ニ示スコト
国及「スカンディナヴィヤ」ニ対スル注文品支払資金ノ融	ルモノ何程ナリヤ右等質問ニ対シ的確ニ数字ヲ挙ゲテ答フ
ノ約束ヲ取消シタルコトナシ尤モ過般露国政府ヨリ更ニ米	へ置キタルガ昨年夏以来露国ニ供給シ尚今後供給ノ約束ア
ル所ニ依レハ英国政府ハ露国ノ日本注文決済ニ関スル融通	弾薬ヲ供給シ居ラルルヤトノ質問アリシニ付其通ナリト答
用ニテ大蔵省ニ出頭ノ際質問ノ結果ナリトテ十六日森ニ語	テ衆議院議長其他二三大臣連ヨリ日本ハ引続キ露国ニ兵器
四七〇	一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 三九九

	水同 克 同 十 克 四同 四 同 同 三 同 二 同 二 同 二 式 五 式 脚 五 八 十 十 十 修 十 珊 十 式 式 四 四 7	- U		三吋野砲			速 射 砲	三 年式	七密口径	,	三 へ 式	三十年式	品	(附属書一)
本邦		g 廿二	爆薬	信	薬	弾	弾	山野	実騎歩兵	実包部品	夷 歩 兵	実騎步兵		露
ニ 於 テ	²² 菜 弾 薬 弾重 弾 薬 加 加 臼 22 勇 薬 車 薬 砲 薬 車 砲 機薬 砲 薬 車 農 薬 曟 薬 砲 包 薬 砲	· 発 · 分带	管莢	管	莢	丸	楽	砲 砲	包銃銃		<u>回</u> 銃	包銃銃	/ 分	国 譲
, 各 国,			<u> </u>			四	1		<u> </u>	三七、〇		元一	契	渡 主
ノ兵器		七五 Q、	000	四九五、	七00、	Ő,	四五三、		六 〇 五 〇			五二三二、	約員	要 兵
本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調査	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	0	0,000	<i>ц</i> , 000	00	OlilO	~	- 五 - 一 - 一 - 八	〇〇五五 〇〇五五 〇〇〇					、 器 概 況
産関係一件	<u><u><u></u><u><u></u><u><u></u><u></u><u></u><u></u><u></u><u><u></u><u></u><u></u><u></u><u></u><u></u><u></u><u></u><u></u><u></u></u></u></u></u></u>	<u> </u>			<u>,</u>		-			三 七		二 九	交	沉 表
			六	四九八、	七00、	11~100	八 〇三、					五二三二、	f 行 済	
凹 〇 一	$\begin{array}{c} \begin{array}{c} \begin{array}{c} \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \end{array}\\ \begin{array}{c} \end{array}\\ $	七、六八〇	たこ、000	八 四 八 〇	00	0110	~	五一五一八	 〇、〇、三五〇 〇、〇五〇 〇、〇五〇 	8		、4、、	員 数	
	<u>к лолож ж по то по по</u>	. 0	-,		*	-,			• -	Į (交	
		, ااالک	八三八	九九六、	000	九〇〇、	六五 Q、) 入 入 Q	1	付未	
									• • • · ·				済 員 数	
		ō	000		 六	<u>0</u> 六	<u> </u>							
	———————————— 六 年 一 月 尽 日	三二〇六年六月尽	, ,	五二〇六年四月尽日	000 六年六月尽日	○○○六年四月尽日	○○○ 六年六月尽日			4 	000 元年二月尽日		完了予定期別	
	及 	B		入 民 日					· <u> </u>				期引員 限渡数 	
		万二五 同十年 四六十	同四月三十六万	月二 二十 十六	五同九五 年六万年 十月同十 一四三一	二七五 十十年 一五十 万万一	二万同六月五万二月二万同六月五万六年五月二十二月五万六年一月九万年十二月五万六年一月九万	自編品編 反車成 上及上 品の 医の	約ノ為露国	挿部 弾品 トハ	六年一月一万同十二月六万		摘	,
70		月年一 八二月 万月二	三十一十万月六六六	七年 万二 月	月 十月月 六 万六七 十 万万	() 同月 三八 日十	八二一四 月十月品 五四五等	要具要	国注ニ文	ス弾丸	/一月 万一			大正五
七三		同二十 六十五 月万万	万年十 三 月万	四六 月十 四二	八 六六 万 年年 二	十一三万	六二月二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	器属弾	「三転売ス	薬莢、	万同十二			大正五年十一月調
		十同二 五三千 万月三 五百	二八十四六	エカ 二六 万年 三	一月六十八万六千五百二月六万六年四月八万) 同四 月 月	月 二九 十万	气 弾薬 備	ノルカ破	雷管、	一月六万		要	月調
		ш. р	<i>)</i> , ,											

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇一

四七三

四七二

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇一

四O三 四七五	本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇二 日	一二 本邦ニ於
右回答ス	、五五〇、〇〇〇ナルモ是等ハ来年六	重砲二、火砲弾薬二、
ナシ居ルモノニ付其ノ御含ヲ以テ御処理相成様致度	、000同実包四0、000、000	ノモノハ歩兵銃八〇、
別紙ノ通リニ有之候尚本件ハ我海軍ニ於テモ極秘ノ取扱ヲ	雑兵器ニシテ其ノ大部分ハ既ニ引渡ヲ完了シ目下交付未済	雑兵器ニシテ其ノナ
政機密合送一二九号御照会ノ本件中我海軍ニ関スルモノハ	一弾薬六、七〇五、〇〇〇及其ノ他ノ	○○○各種火砲八〇一弾薬六、
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿	主要兵器ハ各種小銃六七二、〇〇〇同実包二四〇、三〇〇、	主要兵器ハ各種小銃
海軍大臣 加藤友三郎(印)	ハ開戦以来帝国陸軍ヨリ露国ニ譲渡シタル	リノ回答ニ依レハ闘
大正五年十一月二十九日	貴電第二〇一号ニ関シ陸海軍両者ニ問合セノ結果陸軍省ヨ	貴電第二〇一号ニ関
官房機密第一四三七号ノニ(十一月三十日接受)	•	第一五五号
派遣概要	付通報ノ件	竝派遣人員ニ付 通報
二 大正四年夏以降露国海軍救難作業救援並人員	日本陸軍ヨリ露国ニ供給シタル兵器弾薬数量	日本陸軍ヨヨ
附属書一 自大正四年夏至五年十一月迄露国政府〈引渡	十六日 在仏国松井大使宛(電報)	四〇二 十一月二十六日
送付ノ件		~~~~~~
露国へ軍需品供給並人員派遣等ニ関スル調書		у :
四〇三 十一月二十九日 本野外務大臣宛	国政府ノ要望ニ応センコトニ努力中ナ外務大臣トノ間ニ行ハルル次第ニシテ	今ヤ全力ヲ挙ケテ露国政府ハ在本邦露国大使ト外務大
ノ分へ回答未着ナリ	国政府間ノ応	正式ノ契約締結其ノ
ルモノ将校六准士官一人ナル趣ナリ尚詳紙ハ頸報ス海軍省	国陸軍当局ト在本邦露国大使館附武官トノ間ニ直接行ハレ	国陸軍当局ト在本邦
	技術上ノ交渉ハ	リ頗ル複雑ヲ極メ居レ
	在本邦露国大使ト外務大臣トノ間ニ行ハルルコトア	カ又ハ在本邦露国大
大臣ト在露帝国大使若ハ同大使館附武官トノ間ニ行ハルル	露国側軍需品補給ニ関スル帝国側ノ方針(陸軍主管)	露国側軍需品補
カ是等ノ事項ニ関シ主要ノ交渉へ時ニ露国陸軍大五司外狢本件ノ詳細へ陸軍省当局者ニ於テ説明セラルヘキモノナル	(大正四年十一月調)	(附 記)
「石、孝室」=衣属こ	1	「一方」「一方方」
	ぬ習ノタメ派遣ンタル者ノ内残留ンアル者へ野、 □ □	- 「計学」重包居寸、め
-	•	判任 文 下士
	1二 六	
同 上 朝者 一 同 上 野 子		脳 後 道者
	重砲据付 同上ノ内 野、山砲教大正四年四月 大正五年一月 大正五年七月	夕
•	教習ノ為露国派遣人員調	2424
		(附属書二)
ル兵器ノ払下代価泰平組合ノ手数料ヲ除ク総額約一億六千八百十万円トス対スル予備品其他若干ノ雑兵器ヲ譲渡ンタリ	タニ	二、従来露国政府へ譲渡シー、本表ノ外銃器竝火砲等
		備考
	1、100 1、100 三	同 弾 薬
	111 000 111 000	九 弾 珊 臼
		· 製 十

1二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇一

四七四

二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件引卸ロシ救援ノ為メ露国ノ要望ニ応シ左ノ人員	一、大正四年初夏浦塩港ニ於ケル	概要大正四年夏以降露国海軍救難作業救援並人員派遣	(附属書二)	合 二三四 四八十十三四 一弾 高听火同弾小小二六三 四十十二三四 一弾 方 听吋吋 二四大二品 八引 声 半 四十十二三四, 一, 一, 二, 二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 <td< th=""><th>(附属書Ⅰ) 至 // 五年十夏</th></td<>	(附属書Ⅰ) 至 // 五年十夏
らい いっちょう しんしょう いっちょう しんしょう しんしょ しんしょ	ドケル「	単数難作			 月 迄
一 人 件 員 等		業救援並人員派		四 二	露国政府へ引渡兵器概要譲渡又へ贈与品
四〇三遣	座礁	遣			器概要譲渡
スウエート」	(1) 部内高等官	(1)中佐ノ指援スル	ス	六二八、八八、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	波又い贈 与品
」救難ノ為メ浦塩港ニ派遣スロ七七	部内高等官四名判任官二名職工百四十参名ヲ	引卸ロシ作業ヲ救助セシム	· · · · ·	八〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(五年十一月二十五月)
CY C	香名ヲ 「ペレ	派遣シ「ペレ		事 事	十五日)

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇三

四七六

本邦ニ於	
「テ各国ノ	
兵器軍需品調達関係一	
<u>一</u> 件	
四〇四	
四〇五	

大正五年八月一日着手同十月十五日竣工(パ「ペレスウエート」復旧修理ヲ舞鶴軍港ニ於テ引受ケ

バストポール」ニ派遣セントス露国ノ懇請ヲ容レ大正五年十一月末左記人員等ヲ「セ二、露国「セバストポール」ニ於ケル救難作業援助ノ為メ

部内高等官三名判任官一名職工八名(潜水器二組共)

四〇四 十一月三十日 在仏国松井大使宛(電報)

量竝派遣人員ニ関シ通報ノ件日本海軍ヨリ露国ニ譲渡シタル主要兵器ノ数

第一五六号

十三名ノ職工ヲ送リ其ノ後同船ノ修理ヲ舞鶴軍港ニテ引受兵器へ各種砲九六、砲弾三五、〇四〇、小銃三七、〇〇〇、「一部、の一」、小銃三七、〇〇〇、山崎大正四年浦塩港ニ於テ「ペレスウエート」座礁引卸ノ利尚大正四年浦塩港ニ於テ「ペレスウエート」座礁引卸ノ急救難船淀橋丸ヲ派シ別ニ六名ノ海軍高等官判任官並百四為救難船淀橋丸ヲ派シ別ニ六名ノ海軍高等官判任官並百四

Russe ne pourraient être faites qu'à mesure de l'obtention des crédits en question et dans les limites ne dépassant pas 46 millions de yens pour les premiers 100 millions obtenus, 54 millions étant nécessaires pour couvrir l'arriéré sur les commandes antérieures ainsi que les frais de renouvellement des emprunts déjà émis.

Veuillez agreer, Monsieur le Vicomte, les assurances de ma haute considération.

 (Signé) B. Kroupensky

 一

 十二月八日

 本野外務大臣宛

 小記

 市工月十二日附在本邦英国大使ョリ本野外務大臣宛書翰露国政府ノ大砲譲与方申出ヲ英国政府

 二

 十二月十二日附在本邦英国大使ョリ本野外務大臣宛書前家国政府ノ大砲譲与方申出ヲ英国政府

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 三

 二

 二

 二

 二

 三

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

 二

一二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇六

tité d'artillerie lourde indispensable aux besoins de l'Armée Russe, l'Ambassadeur de Russie a été chargé, pour compléter sa communication en date du 24 No-

vembre/7 Décembre concernant les desiderata du Mi-

タシ 郵報ス尚ホ本件へ前電陸軍ノ分ト共ニ特ニ極秘ニ取扱ハレ 作業援助ノ為海軍高等官判任官並職工ヲ派遣シタリ詳細ハ ケ大正五年十一月「セバストポール」ニ於ケル軍船引揚ケ

四七八

四〇五 十二月七日 本野外務大臣宛

ラルベキ旨申越ノ件発注ハ最初ノ一億円ニ付四千六百万円迄ニ限ニニ回ニ分割スルヲ便トスベキ旨竝露国ノ新規日本ニ於テ発行方ヲ提議ノ露国公債ニ億円ハ

Tokio, 24 Novembre/7 Décembre 1916.

Monsieur le Vicomte

Me référant à notre entretien de cet après-midi et pour évitet tout malentendu J'ai l'honneur de confirmer à Votre Excellence que mon Gouvernement considère que, pour faciliter l'émission sur le marché japonais de l'emprunt russe de 200 millions de yens effectifs dont il a été question, cet emprunt pourrait être effectué en deux tranches de 100 millions de yens chacune.Les nouvelles commandes du Gouvernement

nistère de la Guerre Russe, d'adresser au Gouvernement Japonais la demande de vouloir bien céder au Gouvernement Russe 300 pièces, ou plus si faire se peut, de canons de gros calibres à partir de 15 cm. (6'') et au dessus. Les canons en question seraient nécessaires en formations de batteries complètes munies de tout leur personnel, munitions, chevaux et autre matériel requis. Cette artillerie devrait être mise à la disposition du Gouvernement Russe au début du printemps prochain, vers le l^{er} Mars 1917 et ne pourrait par conséquent être prise que sur les réserves existantes au Japon.

En présentant cette importante demande au Gouvernement Japonais le Gouvernement Russe fait appel aux sentiments qui inspirent tous les Alliés dans un désir commun de s'entr'aider mutuellement pour mener à bonne fin la lutte gigantesque qui se poursuit actuellement en Europe.

Tokio, le 25 Novembre/8 Décembre, 1916.

「十二月八日露国大使持参」(欄外註記)

(右和訳文)

四七九

للا العامير المحالية العالم المحالية العالم المحالية العالم المحالية الم	111 本邦三於子名国ノ兵器軍需品調達医育一件 EIOK 第国軍隊ニ欠ヘカラザル重砲ノ数量問題ニ関スル新報道ニ 21 露国軍隊ニ欠ヘカラザル重砲ノ数量問題ニ関スル新報道ニ 37 願ミ露国大使ハ露国陸軍省ノ希望事項ニ関ジ $+1.7$ 所)及其以上ノ大口径砲三百門又ハ夫レ以上出来得ル丈ケ 56 内)及其以上ノ大口径砲三百門又ハ夫レ以上出来得ル丈ケ 17 京都国政府ニ龍与セラレムコトラ日本政府ニ申出ヅヘ 42 アルモノニシテ従デ唯日本ニ於テ現存スル予備品ヨリ之ラ 17 小素相互ニ協力セントスル共通ノ希望ラー 17 小記 「二、各小紙 二、小銃十 二、各個鋼 小記 二、各個 中記 「二、各小紙 「日、「二月七日附露国陸軍省ノ希望事項 二、各個 小記 二、合和観文 二月七日附露国陸軍省ノ希望事項 二、各個 小記 二、 二二 二、 二、 二、 二二 二、 二二 二、 二 二、 二 二 二
	四八〇 2 1,000 cartouches au moins pour chaque fusil- 3 Fusées 35''-100,000 pièces 4 24 obusiers de 20 cm./8''/. 5 Compléments de munitions pour 1,000 coups par chaque obusier en tout 24,000 Il serait désirable d'obtenir les armes et munitions susmentionnées immédiatement sur les réserves effec- tives des arsenaux japonais Tokio, le 24 Novembre/7 Décembre. (右和訳文) 露国陸軍省ノ希望事項 一、小銃十五万挺若シ出来レハ十五万挺以上 二、各小銃ニ対シ実包少クトモー千発 三、三五秒信管十万発 四、二〇冊(八吋)榴弾砲二十四門 四、二〇冊(八吋)榴弾砲二十四門 五、各榴弾砲ニ対シー千発ノ砲弾薬一式合計二万四千発分 五、各榴弾砲ニ対シー千発ノ砲弾薬一式合計二万四千発分 「附記1) (附記1)

1二 本邦ニ於テ各国ノ兵器軍需品調達関係一件 四〇六

四八一

四八〇